

# The Kansai University Bulletin

Osaka, June 15th, 1924—No. 20

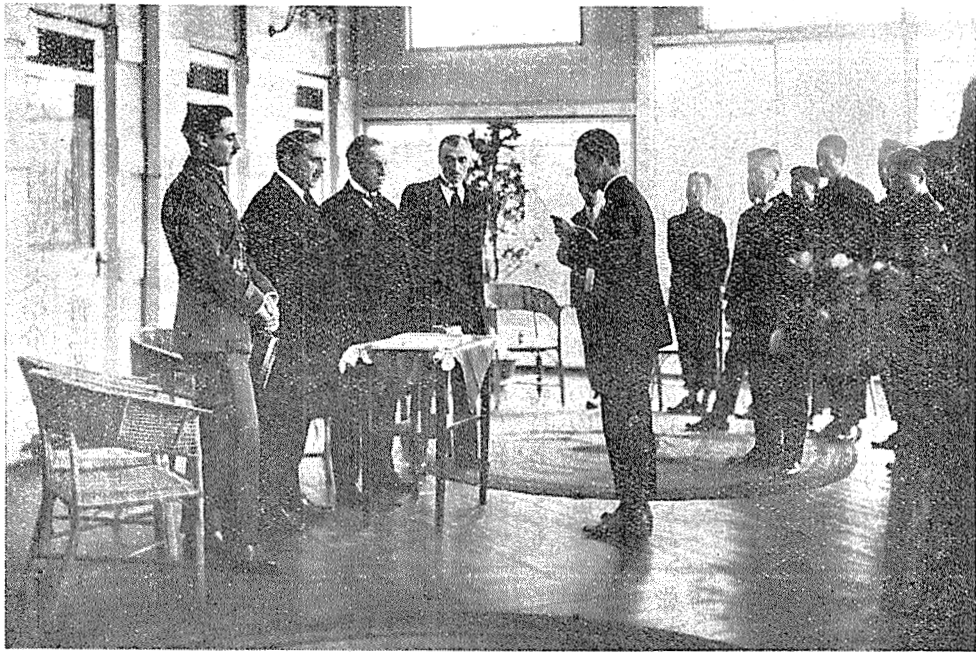
# 報學山里子

行發日五十月六

號念記年周二刊創

年三十正大

Les étudiants de la Faculté de Commerce présentent leurs meilleurs souhaits de bienvenue à S. Exc. M. Merlin, Gouverneur Général de l'Indo-Chine et leur salut le plus chaleureux à S. Exc. M. Claudel, Ambassadeur de France.



生學學本るあつつし早贈を文迎歡に氏ンラルメ督總那支度印領佛

阪 大

堀 佐 土 話 電  
番〇七五五・九四〇一

局 報 學 學 大 西 關

座 口 金 貯 替 振  
番 五 七 八 二 一 阪 大

號 十 二 第

千里山學報 第二十號

目次

挿繪——佛領印度支那總督メルラン氏に歡迎文

を贈呈しつつある本學學生團(表紙)——初夏の學

庭——武内作平氏と板野友造氏の近照——各方面に

於ける本學學生の活躍

創刊二週年に際して

卷頭言

コセンチニ教授訪問記(一)

關西大學教授 岩崎 卯一

學内報——本學文學科新設に對するパリ、リヨン、

ライプチヒ三大學よりの祝文——教員囑任——本

年度新入學生の記念植樹——専門部學年試驗成績

優等及び佳良賞牌授與——本學專門部卒業生の新

資格認定——學部並に大學豫科級委員任命——社

會科學研究會第十回例會——鶴廣陵中學校長の來

學——第二商業學校開校——佐竹理事辭職——本學關

係者の佛國勳章受領——垂水理事の上京——中村贊

助員の榮轉——岸田賛助員の榮轉——夏期語學講習

會豫報——夏期學外講演豫報——本學學位規程並に

教授會規程の認可

校友の面影——武内作平氏と板野友造氏

校友叢報

學生叢報

懸賞論文發表

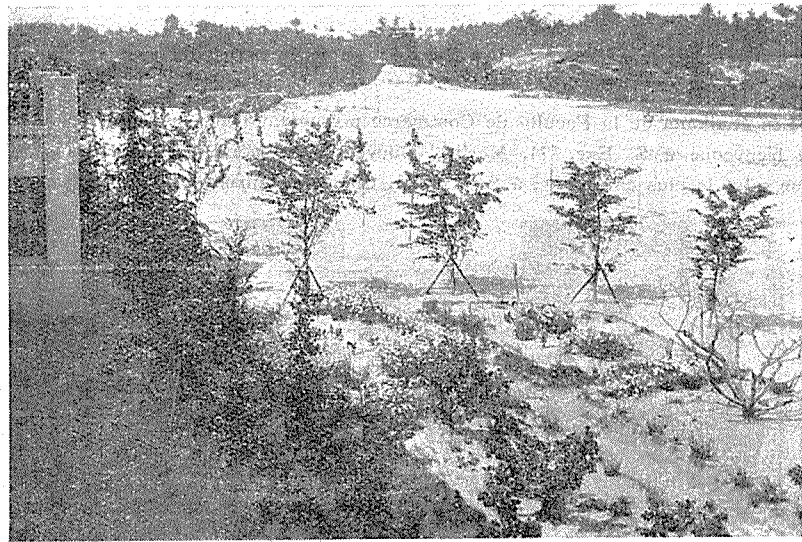
雜錄

創刊二週年に際して

卷頭言

關西大學中興の業がその緒に着いたのと、恰も時を同うして千里山學報はその孤孤の聲を擧げた。従つて、ここに本誌が創刊二周年を迎へたと云ふことは同時に本學が新しい建設の進路を踏み出してから、まる二ケ年を経過したことを意味する。

二ケ年の月日は必ずしも長いものではない。春秋相廻ること僅かに二、少くともこれを本學が有する過去四十年の歴史の上から見れば、經過し來つた時の線上漸く一小區劃を占有するに過ぎないものである。過去四十年、それは言ふまでもなく、本學の絶わざる進歩發展の道程であり歴史であつた。而も最近二ケ年間に於ける本學の新進展に至つては、決して顯著や長足の語のよく形容し得るところではない。當に大學令に依る大學の新設のみではない。當に新學舎の一部竣成のみではない。又當に校友學生數の増加のみではない。専門部文學科の新設、學部經濟學科の増設、第二商業學校の新設、新施設の特に著しきものみに就てすら殆ど枚舉の遑もない程である。



初夏の學庭

外先輩校友の名聲益高く聞ゆるや、内後進學生の活躍日に見るべきものあり、校友と言はず、當局と言はず、教授講師と言はず、學生と言はず、これ等總てが渾然として一括せられた關西大學なる一大有機體は、今や各細胞の末端に到るまで、極度の緊張振を

示して發育し、進展しつつある。これ或は時の勢の然らしめたるものでもあらう。隱隱裡に養はれ來つた過去の潛勢力が、一時に花を開かせ實を結ばしめたものでもあらう。その遠因の如何は兎も角、これが直接の動因は言ふまでもなく現實の人に存する。外校友の絶大なる掩護なからんか、内當局教職員員の努力盡瘁なく、學生に自重進取の氣風なからんか、時の勢も以て利するに由なく、潛勢力は徒らに潛勢力として終るの外ないであらう。

勿論吾人は、自らが放つ光明に眩惑して、徒らに自惚に終始するものではない、本學の實狀或は外餘りに名聲大にして、内これに伴ふ充實さを缺くものなしとは言はぬ。或は實既に完くして未だこれを外部に認めしめ得ざるところもあらう。然しながら、請ふこれを以て校友の誠意足らずと言ふなかれ、當局の努力乏しと言ふなかれ、教授講師の指導宜しからずと言ふなかれ、將た學生の意氣舉らずと言ふなかれ、願はくは興ふるに時を以てせよ。餘りにも短い二ケ年であつた。餘りに爲すべきことの多くして時の足らざりしことよ。關西大學一切の進展度を示す唯一のパロメーターである千里山學報の目盛が、まる二ケ年間に報じた餘りにも速かなる上昇度が、尙ほ願はくは同じ速さを以て、否な一層の増率を以て、本學のために祈る凡ゆる人人の前に今後も斷へず現れ得んことを。

外遊記

コセンチニ教授訪問記(一)

關西大學教授 岩崎卯一

はしがき

大正十二年十二月三日、伊國トリノ市(Torino)に到着、早速トリノ大學を訪問致し候。學長にして且つイタリー上院議員なるブロンデ博士(Bronde)は、善美を盡した學長室に小生を招じ、種種の便宜を興へられ候。

同學長より紹介せられた學者中、小生に最も關係深き人は、當トリノ大學で法理學を擔當せらるるコセンチニ(C. Cosentini)教授にて候。

同教授から受けた印象は、小生の到底忘れ得ざるに御座候間、左にその會見記を略述致すべく候。

コセンチニ教授がイタリーに於ける社會學の重要な一人であることは、小生が未だコムピア大學で、ギディンクス(Prof. F. Giddings)教授の社會學原論の講義を聴きつゝあつた頃から認識してゐたに御座候。然るに、當トリノ大學の私講師格で、且つ法理學の講座を擔任されつつあるは、小生に意外の感じを興へ申候。

多くの學者が社會學建設の祖をオーギュスト・コムト(Auguste Comte)だす旨信し、科學的社會學の歴史は一八三八年に、コムトが出した『實證哲學第四卷——Cours de Philosophie Positive, Tome IV』から初まるやうに考へてゐた場合に、社會學は佛國の所産にあらず、イタリーがその本場であるといひ、ヴィオ(G. B. Vico)を擔ぎ出し、一八八九年に『ヴィオの社會學——La Sociologia e G. B. Vico』を云ふ論文を發表し、誇りの高い佛國學者の注意を惹起した一イタリー青年は、このコセンチニ

教授にて候。

同教授の大著『發生學的社會學——Sociologie genétique』は、フランス文で發表されたため、最も廣く讀まれ、小生も前年パリに在つた頃、一部を買ひ求め、讀み候ひしが、多少讀みこたへありしを記憶致し居り候。この著述は、本年日本譯になつたやうに覺へ居り候。然し、何と

言つても同教授の力作は、一九一一年に發表された『私法改革論——La riforma della legislazione civile』だも、小生は獨り固く信じて居り候。この著述の佛譯は、前年同じくパリで手に入れ候が、この題目が法律的であるにも拘らず、その内容は全然社會學の理論的展開で、社會學に對する尠からぬ貢獻なるやう見受け申し候。

この外同教授には、イタリー語のみで、著された『社會學——Sociologia』も云ふ重要著述あることを、嘗て米田庄太郎先生より承り、早速手に入れんと努力し候も、絶版にや、遂に手に入れることが出来ず、残念に思つてゐた折柄なれば、同教授に逢へば、何よりも先にこの本の内容を見やうと、久しく樂みぬたるに御座候。

尙ほ同教授がその専攻である社會學の講座を擔任せずして、却て法理學の自由講座を擔任されてゐるのは意外であるに書き候へ共、同教授には、『法理學——Filosofia del diritto』と云ふ教科書式の著述あることを思ひ出し候。それよりも同教授の名を世界的になしたのには、同氏が晩年の大事業として、あらゆる迫害、困難を排し、努力されつつある「國際社會學會——Istituto internazionale di Sociologia di Torino」の建設にて候。この學會の誕生及び發展は、コセンチニ教授夫妻が、孤軍奮闘せられた結果なることは、小生が前に聞き及びたるに候。この伊國トリノ市で産聲を揚げたコ

センチニ教授の「國際社會學會」は、社會學そのものに就て、極めて冷淡であるばかりでなく、寧ろその發達に對し、妨害政策を執れるイタリー大學當局の態度も、同學會と殆ど同じ會名を有し、三十年前から「國際社會評論——Revue internationale de Sociologie」をパリ市から隔月に發行してゐる佛國社會學者ルネ・ウォルムス氏(Rene Worms)の嫉視的反感のため、

多大の妨礙を受けたにも拘らず、既に相當の成績を挙げ居り候。一九二一年には、十月九日から十五日まで、當トリノ市で、第一回國際社會學大會(1<sup>er</sup> Congrès Sociologique international)を開催し、國際法、經濟問題、戦後の社會施設、労働問題、婦人問題、優生學問題等が、その討議題目となり居り候。開催地の關係上、出席者は主にイタリー人だつたが、中には佛國の Yves Gyrot のやうな學者の顔振れもその中に見受けられ候。第二回國際社會學大會は、一九二二年十月一日から八日まで、奧國主都ウィエナ市(Vienna)に開催され、前回に比し、數段の發達を示し居り候。題目は前と同様なれば、出席者の顔振れには、着目すべきもの多くこれあり候。

ドイツ社會學會の會長で、その大著『共同團體社會——Gemein-Schaft und Gesellschaft』に於て、ドイツ社會學者の研究態度が如何に莊重なるかを示したキール大學教授テーニース氏(Trenies)や、最近社會學上ケルン學派(Kölner Schule)なる學派を樹立し、歐洲に於ける社會學研究の中樞たらんを企圖してゐるドイツ、ケルン大學教授レオポルト・フォン・ウィーゼ氏(Léopold von Wies)の如きも亦その討議に加はり居り候。第三回國際社會學大會は、同じ本年十月、イタリーの主都ローマ市に開催する筈であつたが、同氏の學敵である佛國のルネ・ウォルムス氏の方で、十二月にパリ市に於て佛國を中心としたる、國際社會學大會を開くため、

間接に妨礙され、一九二四年四月、ローマ市に開催する由に候。コセンチニ教授は、最近に到つて、「學術の國際化」の必要を痛感するに同時に、國家聯合と永久平和の必要も亦痛感し、從來の如く、純理社會學の原野に鋤を入る方には、餘り興味がないやうに見受けられ候。同教授が最近に著された本の題目が、最もよくこれを裏書しゐるやうに思はれ候。一九一八年には「ウッド・ウィルソンと彼の科學的及び政治的活動」と云ふ端納の著述を、イタリー語で發表し、一九一九年には「國際聯盟の前提——Preliminaires a la Société des nations」を、新渡邊博士の著書として相應はじまう著述を佛文で發表され居り候。これ等の本の内容を檢すれば、コセンチニ教授が、熱心な平和主義論者で、その説の當否は別としても、兎も角も一個の堅い信念に活きる哲學者であることを知り得可候。同教授は別に月刊の新聞紙型雜誌『輿論——Vox Populorum』を、英、獨、佛、西、伊五ヶ國語で執筆し、經營され居り候。餘り有力なる雜誌とも思はれざる外觀を有し候。

▲コリア教授の邸宅を辭し、Vittorio Emanuel II の清楚な近代的大通を、東にポー河(Fiume Po)に向つて、靜かに歩みを續け申し候。

マロニエの葉が凋落し初めた頃、パリで求めた毛糸の襦袢の尙ほ暑苦しさを感じる程、トリノ市の十二月は暖さを保ち居り候。この廣く廣くした大通が盡きたあたりより、西を遠望すれば、雪を頂いた崇峻神祕のアルプス高峯の威容が、トリノの市を壓するが如く澄み切つた南歐の碧空に遙に屹立し居り候も、トリノ市の街路樹の葉は未だ全く凋落し切らず、

所所に可憐なる秋の草花が、暖く柔き晩秋の陽光を浴びて、寂しくも又優しく咲けるを見受け申し候。

▲御承知の如く、北部イタリアー Piedmond の主都トリノ市は、イタリア統一の大事業を敢行した Vittorio Emanuele I を生んだる The House of Savoy (サウオア王家) の據城にて候。

▲ロリア教授邸宅の邊りは、現代的都市計畫法により建設されたる場所に見へ、今通つて来た ヴイトリオ・エマヌエル二世通の如きは、バリのシャンゼリゼーの大通を思はしめる程、廣き路幅、並木の美麗、建物の清楚さを調和よく持ち居り申し候。

特に東洋よりの旅人を驚かしたるは、ルネサンス式の建物よりも、その建物の軒下にある堅固なガレリアにて候。これさへあれば、通行人は夏の暑熱、冬の降雪、常時の降雨を完全に凌ぎ得べく、殆ど傘の必要を認めざる程にて候。これ等の大きな建築や、廣い道路を見る毎に、長い間北部イタリアーに割據したサウオア王家の富力を威力を追想致させ候。

▲ヴイトリオ・エマヌエル二世通を東に進み、停車場前の廣場からローマ通 (Via Roma) に入れば、そこに直にトリノ市の心臓に觸れると同時に、中世紀時代の都市そのまゝの姿を如實に認め得べく候。僅か四間を超へない疊石の狭い舊式の道路は、積んで低い十四世紀式建物に取り囲まれ、その道路の上を走るマツチ箱の如き電車 (電車だけは大阪市電の電車を以て、世界一の美麗にして壯大なるものも確信致し候) が、中世紀に近世紀との對照を鮮かに彩れるを見受け候。電車が通る時には、

殆ど避ける餘地のない程、狭い道路にて候。それでも、この狭い道路が、王城 (Palazzo Castello) に通ずる唯一の正道路にて候。その上、この道路は、今でもとうとう大阪心齋橋通の如く、人の頭を以て補装しるる言ひ得る程、賑かにて候。小生が今歩行して来た二個の道路、即ちヴイトリオ・エマヌエル二世通とローマ通を比較すれば、中世紀イタリアー都市の姿、近世紀イタリアー都市の姿を明確に認め得べく候。

▲ヴィア・ローマを通り抜け、小生の足は、トリノ市の中央に當り、且つこれから中世紀時代の狭く穢い小道路が、八方に派出せるピアツァ・カステロ (Piazza Castello) に到つて、旋廻致し候。このカステロ廣場には、中世紀の城の姿をそのままに残した王城が、中央に屹立し、昔を偲ばせ候。この王城を左に見て更に進めば、ポー通 (Via Po) がポー河畔まで細長く延び居り候。このポー通こそ、小生が永く憧憬されてきた大學通に候。若いイタリアー學生が、男も女も群をなして、或は東に或は西に、元氣よく歩行せる状を見、神田邊の午後が想ひ起され候。

(二)

▲このポー通の途中に、トリノ大學の一部である法學部と文學部とが位置し居り候。トリノ大學が、ローマ大學、ボローニヤ大學、ナポリ大學と對立せるイタリアー主要大學なることは、既に御承知のことと存じ候。然し、これ程に有力なトリノ大學の建物を、眼のあたりに見た人は、その建物が餘りに貧弱であるのに驚き、却て自分の視力を疑ふに到るは不思議に御座候。さば言へ、建物は無論石造にて候。中世紀に起源を有つ歐洲諸大學に共通した建築様式——中央に十間四方位な空間を與へた石疊式廣場、これを取り圍んで二階若くは三階建の建物 (教室、事務室、圖書館、教會) ——をこの大學も、極めて粗末に、且つ極めて小規模に持ち居り候。

▲正直に自白すれば、小生は建物に於ては、極めて貧弱なりし母校、大阪福島學舎に業を卒へた後、直に渡米し、母校と反對に、建物の壯大美麗なる點に於て、世界無比と謂はれてゐるコムビア大學に多年留學したためか、貧弱なる母校の建物が長く苦になりしも、歐洲の諸大學、特にこのトリノ大學を視察するに及んで、大學の權威は建物にあらず、その大學の歴史、その大學が有する教授にありと云ふことを痛感し、昔日の愚を悟り申し候。

▲トリノ大學の法學部圖書室で、親切なサルファチ教授 (Prof. Sartati) に再び面會致し候。同教授は、法學部圖書室を、限から限まで案内せられ候。ガラス戸張りの書架には英、獨、佛、伊の参考書が、學科別に配列せられ、研究に便なるやう見受け候。

流石はローマ法の本場だけあつて、ローマ法に關するラティン語の文獻が一番多いやうに思はれ申し候。試みに經濟學に關する部分を覗いて見たところ、イタリアー一流の經濟學者が心血を注いだ代表著述が、美しい背皮の金文字を綺麗に磨き上げたガラス戸の内に光らせ居り候。ロリア教授 (Loria)、グラチアニ教授 (Graziani)、パンタレオニ教授 (Pantaleoni)、スピノ教授 (Spino)、パレット教授 (Paretto)、パネ教授 (Panico Barone) 等の經濟原論が、イタリアー經濟學の全盛を誇るもの如く、ず

らりご肩をならべ居り候。外國の本の中では、矢張り佛國のジード教授 (Gide) の原論、英國のマーシャル教授 (Marshall) の原論、米國のセリグマン (Seligman) タウンソグ (Tausig) 兩教授の原論、埃國のフィリップovich 教授 (Philippovich) の原論、ドイツのシュモラー教授 (Schmoller) の原論などが特に注意を惹き申し候。

▲法律に關する文獻の種類は、主として註釋法學的教科書多く、この點は日本の諸大學圖書館と種類似せるやう思はれ候。これを英米諸大學の法學部圖書室が、判例集で埋もれるに比すれば、歐大陸の法學體系、英米の法學體系との本質的相違が、明瞭に看取せられ候。尚ほ法學部の學生は、教授の許可さへ得れば、自由にこの圖書館に出入することが出来るやう聞き及び申し候。

(三)

▲サルファチ教授に案内されて、國立圖書館 (Biblioteca nazionale) に行き、その二階で、イタリアー社會學の泰斗コセンチニ教授 (Prof. F. Cozzani) に面會致し候。この國立圖書館は、大學の建物内に在つて、コセンチニ教授は、この圖書館の副司書格 (Bibliotecario) にて候。圖書館内は、建物の舊きためか、採光通風に意を用ひなかつたためか、何さなく薄暗いやうな感じを與へ候。

▲コセンチニ教授は、牛の如き體格の所有者にて候。六尺近くの大男にて、體格飽くまで逞しく、顔の面積亦從つて廣く、何さなく鈍重の感を起さしむる人相にて候。茫々生へた髭も剃らず、カラーも鼠色に垢つき、折目の失はれた洋服の上衣は、インキのしみか點

らりご肩をならべ居り候。外國の本の中では、矢張り佛國のジード教授 (Gide) の原論、英國のマーシャル教授 (Marshall) の原論、米國のセリグマン (Seligman) タウンソグ (Tausig) 兩教授の原論、埃國のフィリップovich 教授 (Philippovich) の原論、ドイツのシュモラー教授 (Schmoller) の原論などが特に注意を惹き申し候。

點とし、而かも、これ等に全く無關心なるところは、稍東洋流の豪傑に似たるところこれあり候。トリノ大學學長よりの紹介状を示したところ、非常に喜ばれ、教授のむづかしい顔面筋肉は、一時に大旋廻運動をなし、小供のやうな無邪氣な笑顔を、小生の前に作り出され候。大きな眼鏡の奥から流れ来る眼光には、東洋からの若い社會學徒の來訪を衷心より喜ぶ意味の光波が、多量に含まれるるを感じ申し候。

▲小生は、小生の在米留學當時から、教授の數多き著書の佛譯を讀み、その博識に敬意を拂ひのたる者なるが、教授の重要著作の一たる『發生學的社會學——Sociologie genétique』が本年邦譯されたるを喜ぶ旨告げたる(カ)ら、教授はその日本譯のことは初耳なりとて、發行所、譯者等を詳細に聴き訊され候。それから、何よりも先に、教授と親交ある建部逕吾先生の安否を問はれ候。且つ最近に到着した東京帝國大學の年報中に、建部教授の名の見えざるは如何、引退されたるや、又建部教授が創立された日本社會學院の現状如何等、矢繼ぎ早に質問され候。小生は、建部先生御引退の内情等に就ては、固より深く知り申さず候間、コセンチニ教授を充分満足せしむる程の答辯は出來ず候ひしも、兎に角、社會學は社會科學界の新參者なれば、法學部に於ても、文學部に於ても、動もすれば繼見扱される傾ある(カ)こ、従つて社會學講座擔當教授に勢力なき(カ)こ等を、小生の不充分な佛語で語りたる(カ)こ、教授は待つてゐましたと言はぬばかりに、流暢な然し大きな聲調の佛語にて、イタリー大學に於ける社會學の地位につき左

の如く語られ候。

▲「日本に於ける社會學の現状に就ては、歐文で書かれた文献がないため、知る由もないけれども、日本の官立大學から送付して来る年報を見る(カ)こ、東京帝國大學に二講座、京都帝國大學に一講座、社會學或は社會誌を銘打つた獨立講座があるやうだ。従つて、その他の主要私立大學に於ても一講座位あるだらう。又建部教授から送られた日本社會學院年報及びその會員名簿を見る(カ)こ、數百の知識階級者を網羅してゐるやうだ。これをイタリーに於ける社會學の地位に比する(カ)こ、本當に羨ましい程の發展振りである。今頂戴した貴方の御名刺を見る(カ)ら、Professor of Sociology at Kwansai University としてある。従つて關西大學にも、獨立の社會學講座があるわけだ。

▲「然るに、このイタリー——オーギュスト・コムトが、その實證哲學によりて、初めて社會學を創設した(カ)こ謂はれてゐるが、何ぞ知らん、イタリーはその前に、ヴィコ(カ)云ふ偉大な社會學者を持つてゐた——の大學當局者は、他の文明國では立派に認められた社會學を、一個の獨立社會科學と認めず、従つてこの大學にも、社會學(カ)云ふ一講座を設けな(カ)い。イタリー二十三の官私大學中、法理學、經濟學、統計學(カ)云ふが如き講座はあつても、社會學(カ)云ふのはない。ただ一つ、嘗て偉大な實證哲學家アルチヂ(Ardigo)を教授として持つてゐたバドヴァ大學だけは、自由講座として社會學を認許し、カリリ講師(Carri)がこれを擔當してゐるのが例外である。これまで何度も、社會學を一個の社會科學として認許し、これに對して一講座を設けられん(カ)こ

を當局者及び法學部、文學部教授會に建議したが、絶対に顧て呉れない。「社會學は法律學、經濟學、宗教學、倫理學等の淺薄な寄木細工ではないか。そこに間口の廣さはある。材料の豊富さはある。然し興行がない。又練りがない。建方も粗末だ。換言すれば、精練された體系(system)を有しない。科學(science)云ふ榮冠を受けるに價しない。これは大學教授なきよりも、寧ろ新聞雜誌記者の擔當すべき(カ)こだ(カ)云ふのが、貴族的科學の擔當教授達の誤意見、誤迷論である。無論社會學が、斯様な粗雑な體系を有してゐた時代もあつた。てう(カ)こ、經濟學が會て有つたやうに。然し今日の社會學は百科全書ではない。独自の研究對象(カ)こ、科學的研究方法を有する獨立科學である。」

▲コセンチニ教授は、熱が加はれば加はる程聲速度(カ)聲量度を増加し、元來が聴取りにくい教授の發音は、佛語に對しては極めて鈍き聽神經を有する小生の耳朶に、動もすれば意味を失ひたる雜音(カ)して訪ひ來る(カ)こ多(カ)く、確かな意味を聞き訊すために屢教授の話の腰を折り候。Woulez vous me parler l'entement(カ)を數次繰返し、教授を苦笑せしめ申し候。

▲小生は再會を約し、辭せん(カ)したるに、コセンチニ教授は、明日正午自宅を訪問されたし、食事を共にせん(カ)勸められ、且つ自分の妻は瑞西生れで、且つ(カ)ザリヌ大學でバレット教授の教へを受け英語をよくするから、定めて喜ぶであらう(カ)云ふ旨を語られ候。小生はこの上なき光榮(カ)して、その御厚意を深謝し、明日約束の時間に御伺ひする由答へたる(カ)こ

ろ、自分が小生のホテルまで迎へに來る(カ)申され、更に小生を恐縮せしめ候。

それよりも、一層小生を恐縮せしめたるは、コセンチニ教授が、幹事として盡力されつつある國際社會學會の次の集會に於て「日本の社會學」に就て一場の英語講演を試みて呉れ(カ)の依頼にて候。英語にてする講演なれば、在米留學中、數回試みたる經驗もあれば、さしたる不便を覺へざれども、場所が場所なれば、尠からず躊躇致し候。然し、關西大學の權威のためには、(カ)を盡せよ(カ)の當局の訓令を想起し、思ひ切つて引き受け申し候。而して教授に送られてホテルに歸り、講演の復案を作りがらな寝につき候。

(四)

▲翌六日、ホテルで朝食を喫し了りたる頃、ホテルの主人は、その日のトリノ市發行、イタリー語新聞「La Stampa」を持ち來り、第四頁の末段を指し示し候。指し示された(カ)こを見たるに、小生に關する左の記事あり、即ち「國際社會學會」に於て、小生が試むべき英語講演の豫告にて候。

社會學會の集會

土曜日午後九時、ポー通二番地、新聞協會會合室に於て、國際社會學會の會合行はるべし。而してこの會合は、著名なる(カ)日本)大阪關西大學社會學講座擔當、岩崎卯一教授の講演により特別の興味あるべし。その講演題目は「日本に於ける社會學」(カ)云ふにあり。氏は英語にて講演す(カ)べきも、該講演は大學(トリノ)のマリオ・サルファチ教授により、全部イタリー語に通譯せらるべし。會合の最初に、該學會幹事コセンチニ

教授は、「イタリーに於ける社會學」なる題下に、簡單なる講演を試むべし。講演後、例の如く意見の交換行はるべし。

右原文は本誌第十七號第七頁に抜載したところであるからここに再録することを省略する(編輯者)

(五)

▲正午まで、ポー通に在るトリノ大學附屬經濟學研究室を視察致し候。この研究室の位置は、てうざトリノ大學の向い側で、穢い門を這入り、同じく穢い石の階段を二三回迂廻して初めて達すべく候。特に注意せねば、仲仲判らない場所、その隣にトリノ大學心理學教授キエソウ氏(Kiesow)が主管せる實驗心理學研究室これあり候。經濟學研究室は、ロシア教授努力の結晶で、同教授を主任とし、トリノ大學財政學正教授エйнаウチ氏(Einandi, L.)を副主任とし、數人の助手(全部學生)を使用し、可なり整備しるるやうに見受け申し候。

この研究室の近くに、屋根裡のやうな穢い室があるのを、注意深き人のみ氣付くべし存じ候。今では閉鎖されて、物置同様に放置されてゐるけれども、この室は昔てロムブロン教授(Lombroso)が、最初に刑事人類學研究室として使用し、ここで死刑囚人や、戰場で死んだ兵士や、行旅病者や、その他の死體、骸骨、腦味噌、犯罪用兇器等を蒐集し、近所の人達を可なり薄氣味悪く感ぜしめた由に御座候。ところが、二十年前から、同教授の刑事人類學研究室及び陳列館は、ポー河畔ミケランゼロ通(Via Michael Angello)の新築理科大學の構内に移され、カララ教授(Carrara)により保管され居り候。

▲この經濟學研究室は、四つ五つの小さい室

に別れ、各室の壁側に立てかけた書架には、經濟學に關する文献がぎつしり詰り、それが手際よく分類されあり候。

トリノ大學學生は、自由にこの研究室に這入り、勝手に各自の好きな本を書架より抜き出し、中央のテーブルの上で讀書し得るやう、完全な設備これあり候。試みに雜誌室を覗きたるころ、英・佛・獨・米・伊の各國から發行されてゐる經濟及び社會雜誌の主要なるものは、殆ど網羅し盡され、誠に氣持よく感じ候。

さりわけ、小生に馴染の深い米國社會學雜誌The American Journal of Sociologyの最近號が到着し居りたるを發見し、暫く讀み耽りたる時などは、その身が今イタリーに在るを忘れたる程に候。出來得べくんば、我關西大學に於ても、かくの如き研究室の一つ位は持ちたきものに候。

▲ここに蛇足ながら、誤解を解くために、イタリー大學及び研究室の建物に就て、一言辯明するを許し下されたく候。これまで小生は何回もイタリーの大學や研究室を形容するに、「穢い」か、「薄暗い」か、「狭い」か、「貧弱な」か云ふやうな、イタリー人に餘り好感を與へない言葉を使用したのが、これは、現代的家屋建築及び衛生設備の見地より觀たる判断で、事實にて候。

然し、この點に就てイタリー人に言はしむれば、歴史は衛生よりも尊く、室に窓をつけ、通風採光設備をなすことの衛生上利あることを充分知れども、名ある中世紀畫家が、丹念に描いた壁畫を損するに忍びない。又不便極まる中世紀式建築を呪つてゐるが、これを取り壊せば、この家屋にまつはる長い歴史を捨

てねばならず、これ等過去を尊重する念、即ち古典崇拜情緒が、イタリーの建物を不衛生状態に放置する由にこれあり候。この點に就て如何御考へ遊ばされ候や。

(六)

▲十二月七日正午、コセンチニ教授は、わざわざ小生のホテルまで迎へに來られ候。小生のホテル、即ち Grand Hotel S.I.T.F.A.を共に出で、カー・オ・アルベルト(Carlo Alberto)街上を、肩をならべて歩行致し候。

ヴィア・ポーを右に折れ、ポー河の方に向つて歩みながら、教授はその持論らしき世界平和の理想論を、相變らず國土によく聞く熱を帯びた口調で絶へず述べられ候。ポー通を往復してゐる若い男女の大學生達は、教授に默禮するに同時に、小生の黄い顔にもす早い眼を注ぎ、Giappone! Giappone!と互に囁き合ひ候。

由來イタリーを旅行する日本人は多いが、ピエモンテの主都トリノ市に足を停むる日本人は極めて少いため、日本人の顔を珍らしがるためかと思はれ候。事實、この時トリノ市滞在の日本人は小生だけにて候ひき。

▲コセンチニ教授は、學生に答禮するかたはら、小生に例の解りにくいフランス語で、左の意味のこゝを語られ候。

『文明の高塔は、ある種の民族、特定の國民の努力や貢献だけで、完全に築造されるものではない。文化の發達は、ある特定の民族或は國民が、他の民族又は國民の有する文化を無視し、迫害し、壓倒し、自己が有する文化の強制的世界化を強行することに由りてのみ成就するものでは無くない。文明の高塔は、

特定の信仰、傳統、民風を有する各民族、各國民が、互に他を侵さず、自己の長を以て他の短を補ひ、助長する意味の犠牲的協力によつて、初めて築き上げられるのである。短言すれば、文明は各民族、各國民が有するそれぞれの文化の綜合であり、又あらねばならぬ。

この意味に於て、私達が、光輝あるローマ文明の歴史を有するが故に、イタリー文明が世界を支配する特權又は使命ある如く考ふるのは全然誤謬に陥つてゐる。これと同時に、ドイツ人又は英米人が、自國民を以て、神の特別な寵愛を受けた選民でもあるかの如く考へ、チエートン文化又はアングロサクソン文化の世界化の成就を以て、世界の幸福であるかの如く想像するのも亦誤である。更に白色人種が、現在種種な理由から、稍政治的に優越の地位を占めてゐる點を過信して、白色文明萬能を想ふが如きも亦救ふべからざる重大な錯誤に陥つてゐる。私はこれ等の偏狹な、利己的な、愛國心や、民族心理を憎惡すること甚しい。だから、不合理な愛國心の鼓吹者に向つて、自己の利害を顧みず常に戦を挑んでゐる。これが一面に於て、イタリー大學に於ける私の地位を危険ならしめ、他面に於て、私と私の妻が、生命財産を抛へ程の誠意と熱心さを以て培養してゐる「國際社會學會」が、イタリー内に於て不評判な重要な原因である。

而も、私は、この私の血潮に流れてゐる國際主義の信念を捨てることか出來ない。

▲『私が戦後直ちに國際聯盟の必要を高調し、連續して、これに關する三個の著述を發表したところ、トリノ大學の諸教授は、私の世界平和論や、國際聯盟論を、採るに足らぬ一種

のユートピアに冷笑し、黙殺し去らんとした。私は直接間接に、多くの嘲笑冷罵を受けたがよく忍耐した、ところが、私の叫んだ国際聯盟は今や現實になつて世界人の眼前に存在するではないか。

▲「国際聯盟は、獨り政治的に必要なばかりでなく、學術的にも亦必要である。如何なる國民も、智能優れたる學者の指導によつて向上の道を進む。この學者の聯盟を實現せしめるために、私は一九二一年十月、當地で第一回國際社會學大會を開催した。ところが、この大會に對する當トリノ大學當局者に法學部教授達の冷淡さは、甚しいものであつた。驚いたことには、教授の大部分は出席もして呉れなかつた。然し、第一回及び第二回國際社會學大會の成績を見よ。私はこれを立派に培養し、成育させて見せる。」

(七)

▲教授と小生とは、何時の間にかポー通を通り越し、ポー河上に架かれる Ponte Vitt. Emanuele I (ヴィトリオ・エマヌエル一世橋)に立ちつありしを發見致し候。この橋の上からは、最も美しいトリノ市を眺め得べく候。橋を越して、爪先上りに、小高い岡を上りたる Via Santorre Santarosa 21 に、コセンチニ教授の私宅これあり候。この附近に、アルプス高峰觀測所も、アルプス連峰動植物博物館もあり、觀測所に据へつけた大望遠鏡より、白雲の冠を載いたアルプスの連峰を明瞭に望み得られ候。この岡の上に登つて初めて、山と、河と、市街と、歴史に飾られたるサヴァアルプス(雪影の町)の佛を見得べく候。ポー河を流れる水の量は多くないけれども、飽

くまで清く澄み、アルプス山の雪溶けの水たるを想はせ候。

▲コセンチニ教授宅は、ロシア教授邸宅が、豫想外に立派だつたのに比し、甚しく質素に見受け申し候。それにも拘らず、コセンチニ教授夫妻が示される親切さ、行き届いた待遇は、小生をして、直ちに at home の感じを抱かせ候。家に入るや否や、諸聖ラファエルでも描いたやうな、優美な顔立を持つた十歳ばかりの長男と、人形のやうな愛くるしさを有する六七歳の令嬢とが、鮮かな佛語にて、鄭重に挨拶致され候。

コセンチニ教授夫人は、スネス、ロザリヌ育ちのこと故、その美しい唇より洩れる佛語の鮮やかなことは言ふまでもなけれど、特に小生の注意を惹きしは、天真爛漫一點の飾りなきその無邪氣な舉止にて候。由來外國婦人の年齢を推定するは至難なれど、教授夫人は未だ四十歳を超へざるべく、さまで美人と云ふ方の顔立には候はねど、智的聰明さ、情緒の純潔さを、極めてよく調和した結果出来上つた人格の所有者らしく感じ候。

▲書齋は極めて亂雑で、教授がこの中で研究されるやうにも見えず、又藏書も餘り見當らなかつたが、これは或は教授が國立圖書館の副司書と云ふ職務上、その圖書館のみを利用されるためなるべしと想はれ候。應接室にも何等の裝飾なく、ただ繪筆にも相當自信あるらしき教授夫人が、描かれたと云ふ日本畫に似た油繪が、二三壁にかかつてゐるのみで、何れを見ても、思ひ切つた教授夫妻の簡易生活がうかがはれ申し候。

▲食卓に着いてから、社會學の話が、次から

次へも續き申し候。教授夫人は、小生の驅使する佛語が、複雑な思想を言ひ表すに不充分なため、肝要な御馳走も喉に通らぬ程苦心せるを見て氣の毒が、今度は自分から英語で話しかけられ申し候。その親切は感しかつたが、教授夫人の英語力も、小生の佛語の域を餘り超へず、夫人の英語の音波は、屢暗礁に阻まれ、その度毎に小生に助船を乞ふなき、極めて滑稽な、然し愉快な場面を展開致し候。尙ほ夫人は、パレト教授(Pareto)の講義を聴かれたさうで、パレト教授の有名な猫好きの話なき面白く語られ候。

▲コセンチニ教授は、夫人と小生との英佛語混合の會話を、にこにこして聴き居られ候。ひしが、やがて、書齋から一通の手紙を取り出し來つて、讀んで見よと示され候。取り上げて見たところ、これは東京帝國大學の建部遯吾先生が、奇麗な佛文で、認められたコセンチニ教授宛の手紙にて候。

又この手紙と同時に、「日本社會學院年報」第一年第一冊と、その當時の會員名簿とを示され候。日本社會學院年報第一冊には、恩師米田庄太郎博士が、執筆されたところの日本に於ける社會學に關する文献中、最も貴重な論文が掲載してあるので、これ亦讀みたがいと希望しながら、今日までその儘になつてゐるが、今イタリー、トリノ市コセンチニ教授の宅でその論文を見、渺からぬ懐かしさを覺へ申し候。

▲コセンチニ教授は、建部博士の知遇を得たこと、コセンチニ教授が創立された國際社會學會に對して、はるばる東洋の一角から祝詞を寄せられたこと、建部博士が創立されたる

日本社會學院の名譽會員にコセンチニ教授を推舉されたこと、その社會學院の年報等を寄贈されたこと等を非常に喜ばれ、建部博士の手紙は又家寶の如く鄭重に文庫に收められ候。これを見て小生は、建部博士の行き届いた御心情を感しく思ふと同時に、一片の手紙が寄せる好意の傳波が、如何に力ある結果を齎すかを痛切に感じ申し候。

▲教授は、獨り社會學ばかりでなく、總ての實證學派が、今イタリーでその位逆境にあるかを詳細に語られ候。イタリーは、ギリシャ思想を直接繼承したローマ文明が、古い傳統に深く拘束されてゐる結果、政治に於ても、法律に於ても、兎角貴族的で、勞働を蔑み、瞑想にのみ耽る結果、動もすれば、神祕主義に傾き易く、實證主義を輕蔑する癖あるを嘆かれ候。特に戦後、neo-Hegelian idealism が流行し初め、先づ哲學界を風靡し、次に法學界を席捲し、最後に社會學にも及ぼさんとする由を語られ候。

▲「トリノ大學で、私は表面上法理學(Filosofia del diritto)の講座を分擔し、教授してゐるが、その事實は全然社會學を講じてゐるのである。法理學に關しては、一九一四年に、「法理學——Filosofia del diritto」云々六百頁に近い著述を、トリノ市で出版したが、私の「法理學」は、他の教授達即ち所謂法理學者の法理學と違つて、全然、社會學的實證主義の見地から、法的現象を論じたものである。従つて、社會學に理解も興味も持たぬ他の法理學教授達から、辛辣に批評せられるは當然である。極く簡單なものであるが、一九〇四年に「法理學と社會學——Filosofia del diritto,

e sociologia」云ふ小冊子を、ナポリ市で出版したことがあるが、この論文にも、社會學的の法理學を明確に記述して置いた。兎も角、私は徹頭徹尾實證主義者である。

▲「然るに悲しいかな、現在には、ネオ・ヘーゲリアン哲學の黄金時代である。現イタリー文部大臣ゼンチ教授 (Prof. Giovanni Gentile) は、御承知の如く、前ローマ大學の哲學史の正教授で、ネオ・ヘーゲリアン主義の最も熱狂的な謳歌者である。彼は實證主義を飽くまで蔑視して、神秘主義、精神主義、理想主義、形而上學なミ云ふ響のよい名辭の下に、ネオ・ヘーゲリズムを辯護したものである。純粹哲學の範圍に於ても、英米流のプラグマチズムは、惡戰苦闘であるを聴く。まして況んや、社會學の如き、未だ公認されない新しい科學の逆境想ふべし。當分イタリーでは、社會學が經濟學のやうに、獨立社會科學として公認される見込はない」

▲小生はコセンチニ教授の如く、社會學の研究に心血を注ぐに既に三十年、「社會學— Sociologia 1912」の如き七百頁に近き著述を發表し、その巻頭は著名なるモルセリ教授 (Prof. Enrico Morselli) 及びコヴァレフスキー教授 (Prof. Massimo Kovalevsky) のスキー教授 (Prof. Massimo Kovalevsky) の introduction を以て飾られ、又「私法制改革論— La riforma della legislazione civile, 1911」の如き、同じく七百頁近くの著述を發表し、その佛譯まであるに拘らず、未だ正講座も與へられず、名義上こそトリノ大學教授とは言へ、事實は僅に法理學の私講師格なるを、衷心から氣の毒に思ひ申し候——トリノ大學法理學講座正教授はソラリ氏 (G. Solari)

にこれあり候。

▲コセンチニ教授の數多い著述に、卓拔な獨創力の輝きが乏しいことは、小生も亦これを認むるに躊躇しないけれども、その博識と、その該博な智識を巧みに綜合される長所は、何人も認識するに可なるべく、この綜合力こそ、同教授の獨創力と認むるが至當と愚考仕り候。コセンチニ教授は、よくヴィコ (Giovanni Battista Vico, 1668—1744) の哲學を援用し、その談話中にも、甲に申上げた教授の處女作「社會學のヴィコ— La Sociologia e G. B. Vico, 1899, pp. 174」を二度まで書棚から引出し示され候。

コセンチニ教授のヴィコ崇拜は、殆ど信仰に近く、國際社會學會の會員章たる銀メダルにも亦ヴィコの肖像を刻みつけあり候。この會員章たる銀メダルは、小生にも一個分與され、別に二個、一個は東大の建部教授、他は京大の米田教授に贈り呉れし託され候。

(八)

▲イタリー大學に於ける教授の生涯として、コセンチニ教授の現状は、確に不遇な人らしく見受けられ候。教授の殆ど熱狂に近い程のヴィコ崇拜は、單にヴィコがイタリーの生んだ最も偉大な實證主義哲學者であり、教授の故郷である美しいナポリに生れ、同じくナポリに死んだヴィコが、同郷の先覺者である云ふ因縁ばかりでなく、ヴィコの不遇な學究生活が、同じ境遇に在るコセンチニ教授の心緒に觸れたる結果にあらずや、密かに推察致し候。

▲十七世紀の末葉から十八世紀の初頭に亘りヴェスヴィアスの火の煙、美しい海岸、舊

い歴史の大學を以て、早くから世界に知られたナポリ (Napoli) に生れ、"Principii di una scienza nuova" の大著を遺して不遇に死んだイタリー哲學者にして同時に社會學の祖ヴィコの生涯は、既に御承知は存じ候へども、ここに簡単に申し述べたく候。

▲ヴィコは今から約二世紀半前、即ち一六六八年の五月二十三日、ナポリ市に生れたイタリー人にて候。彼は貴族の血統を享けて生れず、資産家の寵兒として生れず、實に見る影もない貧弱な一本屋の息子として生を享け申し候。七歳の時、誤つて轉び、頭部を強く打つたため、彼の精神と肉體とは影からず影響せられ、後に彼の性癖となつた憂鬱冥想の傾向を助長したと言ひ傳へられ候。彼の父は無學無識しかつたが、若いヴィコの優秀な智能に囑望し、彼を辯護士に仕立てやうと考へて、貧窮の間に苦心しながらも、ナポリ大學に入學させ候。ナポリ大學法科での彼の成績は、拔群だつた由に候。彼が僅に未だ十六歳の時、父の訴訟事件に就て、父の訴訟代理人となり、法廷に出頭し、雄辯を振つて努力した結果、勝訴に歸したことが、彼の卓拔な才幹を證する一挿話として残り居り候。

若き彼は、然しながら、深味に乏しい註釋法學研究に飽き、後には主として、歴史學、文學、法理學、哲學等の文献のみを耽讀した由に候。大學を卒業した後、イスキア僧正の親類達の法律私講師となり、彼等と共に、サレルノ (Salerno) 州のチレント (Cilentio) 附近に在る彼等の住所に移り住み、そこに於て九ヶ年を経過致し候。一室に引籠つて靜に讀書思索するのが、彼が有つ唯一の趣味で、この九ヶ

年の間に、彼は貧るが如く、古典を涉獵した由に候。その間に最も多くプラトーン (Plato) ミタシツス (Tertius) の著述を讀み耽つたが、前者が描いた理想國家よりも、寧ろ後者が表現しやうとした現實人の方に多く傾倒し、彼の實證主義的哲學の傾向は、この時分から萌し初めたを傳へられ候。

▲ナポリ市に歸つた後、暫くは何人からも認識されず、黙黙として讀書しつゝあつたが、一六九七年彼が二十九歳の時、辛ふじてナポリ大學から修辭學講座を提議され、僅かな年俸に依つて、衣食の資を得るに可なり相成候。されど、この時分に於ける彼の貧窮さと言つたら、誠に悲慘の極にあつた由に候。彼は貧乏人の娘で、而も私生兒、その上無學文盲目に一丁字ない一少女と結婚致し候。家庭の人員は年と共に増加し、費用これに伴つて増大するが、ナポリ大學の年俸は何時まで経つても増加せず、財政的には身を切られる程の苦みを嘗めた由に候。

これにも拘らず、彼の讀書研究癖は、この家庭的窮乏に阻まれず、この時分から彼はほつほつ研究の業績を發表し初め候。大體に於て、彼の思想、特に法理學及び歴史哲學に於ける彼の思想に、強い影響を及ぼしたのは、Francis Bacon の Grotius であつたらしく思はれ候。彼が四十歳になつた時、即ち一七〇八年に、「De ratione studiorum」を發表し二年後に「De antiqui — "sima Italorum Sapientia"、一七二〇年に「De Universi juris Uno Principio e fine uno」を翌年に「De Constantia Jurisprudētis」を發表致し候。



その翌年、ナポリ大學法學正講座に缺員を生じ、大學がその講座擔任の候補者を物色した時、彼は前掲四種の著述を提供し、採用を希望したけれども、彼の希望は遂に達せられず、その空席は他の名もない學者に依つて充たされ、彼は例によつて、失望の苦き盃を飲み乾し候。かかる不遇にも屈せず、彼は更に深く研究した結果、遂に一七二五年、五十七歳にして、社會學の寶典として、コントの「實證哲學」に共に珍重される「Principii d'una scienza nuova」の大著述を發表致し候。一七三五年、その當時ナポリの王だつたチャールス三世は、彼の才能を認め、彼に帝室史料編纂官の職を與へたけれども、彼はこれを喜ばず、依然として、元の讀書研究生活を續け候。一七三〇年に、彼は「Principii」を改訂増補して第二版を出し候も、爾後病魔に悩まされ、研究も思ふに任せず、一七四四年、辛うじて訂正第三版を出し、同年十一月二十日ナポリにて地上の戦を了へ候。

彼は終始大學正教授の地位を希望しながら、遂にその希望は酬むられることなくして、その薄幸なる一生を送り候。彼の生存中は、彼は一人の後繼者、祖述者、崇拜者、擁護者を持たずして不遇裡に瞑目致し候。彼の學說が認められるに到つてから漸く一世紀、今日では、總ての哲學史は、尠くも彼の哲學に就て數頁を費さないのはないけれども、彼の死後長い間、彼はボンペイの廢市の如く、葬られてゐた人にて候。人の價値は、死後百年にして漸く定まることは、彼のやうな者を指すものではないかと思へられ候。(未完)

## 學 内 報

### 本學文學科新設に對する パリ、リヨン、ライプツ ヒヒ三大學よりの祝文

本學専門部文學科の新設に對し、歐米諸大學から懇篤な祝文を寄せられたことに就ては、前號に詳報したところであるが、尙ほその後佛國パリ、リヨン兩大學並に獨逸ライプツヒヒ大學から左の如き祝文を寄せられた。

#### Mon sieur le Président,

Paris, le 10 avril 1924.

La Faculté des Lettres de l'Université de Paris me charge de vous témoigner l'attribution qu'elle a éprouvée en apprenant qu'une Faculté des Lettres va aussi s'ouvrir au printemps à l'Université Kansai.

Nous savons tous, en France, que la grande cité d'Osaka est la métropole industrielle et commerciale d'un puissant Empire. Mais nous n'ignorons pas non plus que, dans l'antiquité, elle fut cette Naniwa des poètes, où les vagues rapides de la Yodo-Gawa charriaient de blancs fleurs. Nous félicitons qu'un corps organisé perpétue l'âme exquise du vieux Japon au milieu du Japon moderne.

Il nous est particulièrement agréable d'apprendre que certains de vos étudiants s'appliquent aux lettres françaises. Nous souhaitons qu'ils se multiplient comme les roseaux de la baie de Naniwa, qu'ils s'étendent de proche en proche comme les flans de la montagne d'Osaka, et qu'un jour notre vieille Université ait la joie de voir venir à elle quelques représentants de cette brillante jeunesse.

La barrière d'Osaka, qui sépareit jadis vos provinces de l'Est et de l'Ouest, n'est plus maintenant qu'un souvenir. Notre désir, comme le vôtre, est qu'il n'y ait bientôt plus de barrière entre l'Orient et l'Occident du monde, et que, conformément à ce haut idéal d'une « Humanité nouvelle », que daignait évoquer Son Altesse Impériale le Prince Régent Hiro-Hito, lorsqu'il nous fit l'honneur de visiter la Sorbonne, une union étroite s'établisse entre vos Universités et les nôtres pour le bien suprême de la paix et de la civilisation. C'est dans cet esprit que je vous prie d'agréer, Monsieur le Président, avec les félicitations et les souhaits de prospérité de la Faculté de Paris, l'assurance de mes sentiments personnels les plus distingués.

Perd. BRUNOT,  
Doyen de la Faculté des Lettres,  
Commandeur de la Légion d'Honneur.

#### 右抄譯

パリ大學文學部が、貴學にも亦文學科の新設せられたことを承り、非常に満悦を感じるものであることを、同大學文學部の名に於て申し上げます。

我我フランス人は、大阪の大都市が、強大なる日本帝國の商工業の中心であることをごよく知つてゐます。これと同時に、我我フランス人は、大阪が又、古代に於ては浪速の都であり、淀川の波浪白く岸打つ邊に、多くの詩人が現れたことを、無視するものでありません。

我我は、大阪の文學的精神——大阪に在つた古き日本の文學的精神が、新しく日本に對しても、尙ほ永遠に榮えんことを祈つて已まぬものであります。貴學に於ける幾多の學生諸君が、フランス文學をも研究して居られることを、特に喜

ばしく存じます。このフランス文學の研究が、浪速の瀛の葦の如くいや増し、且つ生駒の山の樹の如く繁榮せられんことを望んで已みません。尙ほ進んで、我パリ大學が、貴學の前途ある青年學生の代表者を、迎へる日の近からんことを希望致します。東西海洋に依つて離隔された障礙は、既に昔日の想出に過ぎません。我我は、今や東西の間に、何等これを離隔する障礙の存するなく、新しき人道てふ高い理想に従つて、貴國の大學とフランスの大學との間の關係が、世界の平和並に文明のために、一層密接ならんことを望むものであります。

而もこれに關しては、嘗て攝政宮裕仁殿下が、我ソルボアに行啓せられた時にも、既にこのことに關して、令旨を賜つたところであります。終りに、再びパリ大學からの祝意を表し、私自身の敬意をも併せ表すものであります。

パリ大學文學部長 ブリーノー

#### リヨン大學祝文

L'UNIVERSITE DE LYON à

L'UNIVERSITE DE KANSAI

L'Université de Lyon salue avec joie la naissance d'une Faculté des Lettres à l'Université de Kansai. Dans l'empire du soleil levant un astre nouveau monte à l'horizon.

Des relations amicales unissent depuis longtemps déjà la ville de Lyon au Japon. La grande cité européenne de la soie se félicite des échanges nombreux qui se font chaque jour entre les chefs de sa principale industrie et d'illustres maisons japonaises, foyers d'activité intelligente et probe. Elle est heureuse

de donner asile à une importante colonie de Japonais que des opérations commerciales et financières lui amènent sans cesse et que sa population entoure d'une légitime sympathie.

L'Université de Lyon, fidèle image de la ville, tourne vers le Japon son affectueuse attention. Elle y a envoyé, il y a peu d'années, son représentant le plus autorisé, M. le Recteur Joubin, accompagné de M. le Professeur Courant, le maître qui fait connaître, à la Faculté des Lettres, la vie de l'Extrême-Orient et cette mission a eu l'heureux résultat d'indiquer le chemin de Lyon à une élite de jeunes gens qui quittent chaque année leur belle patrie asiatique pour achever leurs études sur les bancs de nos amphithéâtres et dans nos laboratoires. En plus du professeur qui étudie spécialement l'Extrême-Orient, la Faculté des Lettres est fière d'avoir possédé, en la personne de M. Focillon, un éminent historien de l'art qui a écrit sur l'art japonais des pages d'une haute inspiration.

La Ville de Lyon, centre d'un intense labeur industriel et commercial, a toujours tenu les lettres en grand honneur. Elle sait qu'à côté du domaine des réalités où les sciences appliquées créent le progrès matériel, il est bon de laisser une large place aux études désintéressées. Celles-ci ne sont pas un luxe inutile. Elles façonnent et ornent l'esprit: elles forment le jugement et, en apprenant à bien penser, elles contribuent au progrès moral, au progrès de la civilisation.

Pénétrée de ces vérités, l'Université de Lyon se rejouit de voir l'Université de Kansai ajouter à sa Faculté des Lettres aux Facultés d'un caractère plus technique qu'elle possédait déjà. L'Université de Lyon souhaite à la Faculté nouvelle de trouver un solide appui dans une population à la fois soucieuse d'améliorer les conditions de l'existence et pleine de respect pour la pensée pure, et d'accomplir sous favorables une brillante destinée.

Recteur de l'Université de Lyon.

9 Avril 1924.

右抄譯

リオン大學は、關西大學に文學科が増設せられ、豊榮昇る日の本の國に、更に一つの新しい星が水平線上に上つたことに對し、衷心祝意を表するものであります。

我リヨンの町に貴國との間に親善の交へられることは、既に久しいものであります。リヨンの町は、ヨーロッパに於ける大都會の一であつて、殊に絹織物に關する商工業の中心であり、従つて貴國との商業上の關係も極めて深いが、更にリヨンの町は、智識の淵藪であります。尙ほリオンは、貴國との商業關係深きがため、その關係に於て、貴國人の當地に來るもの多く、而もリヨンの市民は、これ等の貴國人を、常に深甚なる好意を以て迎へてゐます。

リヨンの町のシムホルにも云ふべきリオン大學は、多大の期待を以て貴國にのぞむものであります。その一發現として、數年前リオン大學の代表者たる總長ジュバン氏並に本學文學科教授にして、東洋の研究者たるフーラン教授を貴國に派遣しました。この一行が貴國を訪問したことは、貴國の青年にして本學に笈を負ふ諸君に對し、異常の利便を與ふるの結果を齎しました。殊に本學は、東洋研究の第一人者として誇るべきフオシオン教授を有つてゐます。御承知の通り、同氏は有名なる日本美術の著書を公にした美術史の大家であります。上述の如く、商工業の中心たるリヨンの町は、同時に一方に於て、文學並にその研究

を尊重するに非常であります。一方に於て、應用的科學が、物質上の進歩に資するに云ふ唯物的社會の一面には、必ずや唯物主義を離れた研究を尊重しなければならぬことは、リオン市民の一般に悟つてゐるところであります。この唯物主義を超越した研究は、決して不必要なる贅澤ではありません。即ちこれ等の研究こそが、人類のスピリットを造り、又これを飾るものであります。尙ほ換言すれば、これ等の研究は、吾人人類の批判考察の力を強からしめ、延いて、道德の進歩及び眞正なる文化の發達の根柢を成すものであります。

これ等の眞理に浸透されてゐる我リオン大學は、今や關西大學が、從來有つてゐた比較的技術的な教育の各部に、文學科の科を加へられたことを知つて、非常な喜びを感ずるものであります。

終に臨んで、リオン大學は、貴學が偉大なる見識を以て創設されたる文學科の御繁榮を祈願致します。

一九二四年四月五日 リオン 大學

ライプツヒヒ大學祝文

LEIPZIG, am 11 April 1924.

An die Kansai-Universität zu Osaka,

OSAKA.

Anlässlich der Errichtung einer Fakultät der Philosophie an der Kansai-Universität zu Osaka beehre ich mich derselben namens der Universität Leipzig unseren herzlichsten Glückwunsch auszusprechen. Möge die neue Fakultät wachsen, blühen und gedeihen und das Band der freundschaftlichen Beziehungen zwischen Japan und Deutschland weiterhin

fester knüpfen helfen.

Mit vorzüglicher Hochachtung

ganz ergebenst  
Rektor der Universität

Dr. G. Heindorff

右抄譯

貴大學に文學科の新設せられたことを承りライプツヒヒ大學の名に於て、滿腔の祝意を表するものであります。

該新設學科の繁榮に依り、日本とドイツとの親交が、ために一層増進せしめられんことを祈願致します。

ライプツヒヒ大學總長 ハイन्दルフ

教員 囑 任

今回新たに左の通り本學教員として囑任した

心理學 文學士 笠 達 惠  
專門部講師

本年度新入學生の記念植樹

本年度本學大學豫科新入學生一同は、新入學を記念するため、千里山學舍學生控所入口右側に高野杉一株を植樹した。

専門部學年試驗成績優

等及び佳良賞牌授與

去る三月施行の本學學年試驗成績優等並に佳良者に對し、今回左の如く、それぞれ賞牌を授與した。

- 専門部法律學科第一學年 吉田 錦一郎
- 同 辻 井 安 造
- 學年試驗ノ成績優等ニ付賞牌一個ヲ授與ス
- 専門部法律學科第二學年 綾木 茂太郎
- 同 商業學科第二學年 岡 田 勝 治
- 同 經濟學科第一學年 高畑 喜一郎

同 商業學科第一學年 戸田清一  
 學年試験ノ成績佳良ニ付賞牌一個ヲ授與ス

**本學專門部卒業生の  
 新資格認定**

過般文部省告示第二九〇號を以て、大正十四年三月以後の本學專門部正科卒業生に限り、高等學校及び大學豫科修了者ニ同等以上の學力あるものニ認むべき旨指定された。

追て、これに依り、明年三月以後の本學專門部正科卒業生は、高等試験令に依る豫備試験免除並に大學令に依る本學學部入學資格を附與せられることなるわけである。

**學部並に大學豫科**

**學級委員任命**

去る五月二十七日正午から、學部並に大學豫科學級委員任命式を舉行し、左の通り任命、官島專務理事からそれぞれ辭令を手交した。

- |             |             |           |
|-------------|-------------|-----------|
| 注學部法律學科第三學年 | 小 鹿 義 治     | 繁 森 明     |
| 同 政治學科第三學年  | 吉 田 奎 文     | 岡 定 久     |
| 同 商業學科第三學年  | 上 田 三 治     | 田 中 政 三   |
| 法學部法律學科第二學年 | 福 西 新 右 衛 門 | 黒 坂 嘉 徳   |
| 同 政治學科第二學年  | 天 宅 俊 一     | 清 家 唯 一   |
| 同 商業學科第二學年  | 山 本 詳 市     | 久 保 田 直 敏 |
| 法學部法律學科第一學年 | 山 池 活       | 上 村 靜 馬   |
| 同 商業學科第一學年  | 芳 原 棧 一     | 四 辻 詮     |
| 同 經濟學科第一學年  | 中 野 勇 次 郎   | 國 松 左 太 夫 |
| 大學豫科第二學年    | 杉 村 眞 太 郎   | 甲 賀 徳 男   |

同 第二學年 A 組  
 西 村 壽 陸 野 口 茂 樹

同 B 組  
 増 山 俊 三 出 原 保 正

同 第一學年 A 組  
 山 口 多 賀 藏 平 山 秋 夫

同 B 組  
 矢 野 義 人 寺 下 勇

同 C 組  
 武 藤 道 三 江 戸 力

同 D 組  
 田 中 三 男 稻 村 金 藏

同 E 組  
 梶 關 市 山 城 敏 夫

同 F 組  
 西 崎 作 太 郎 宮 瀬 勝 也

**社會科學研究會第十回例會**

本學社會科學研究會では、去る五月二十八日午後七時から阪神急行實家線會根停留前志方邸内で、その第十回例會を開催した。出席者は左記諸氏で、當會研究發表の順に當る本學講師賀來俊一氏は、『佛說の業と社會科學の交渉』なる題下に、約一時間半に亘り、先づ佛敎で謂ふところの「業」の概念から説き起し、進化論、遺傳説等との關係を述べ、更に一般社會科學との交渉に論及して、この種の説話には平素餘り交渉を有たぬ聽者の多くに、特に深き興味を興ふるものがあつた。

右講演後、會則第七條に依り、同會幹事改選の結果、滿場一致を以て辰巳經世(再選)、戸田省三兩氏を推薦し、兩氏共に承諾、午後九時過ぎ盛會裡に閉會した。

出席者—岩崎卯一氏、戸田省三氏、賀來俊一氏、武内省三氏、辰巳經世氏、中村鄧次郎氏、中村良之助氏、村上喜貞氏、小泉幸治氏、宮島綱男氏、水谷揆一氏、森川太郎氏

**鶴廣陵中學校長の來學**

廣島縣廣陵中學校長鶴虎太郎氏は、去月二十六日本學千里山學舎を訪ひ、學内を參觀して辭去されたが、右廣陵中學校出身者で現に本學に在學する者は左記五名である。

新本四郎(政二)、久保田達二(商二)、津島唯夫(豫二)、御堂河内四市(同)、松浦基緒(同)

**第二商業學校開校**

前號所報新設本學第二商業學校は去月四日入學試験を施行し、同月十八日開校式舉行、十九日から愈授業を開始した。

開校式には全新生は勿論、新たに同校に教鞭をこるることとなつた教諭諸氏並に同校關係の本學教職員諸氏出席し、午後一時岩岸教諭が開式を宣し、次で宮島本學專務理事、木下本學幹事兩氏の訓示があつて午後二時半閉式、終つて當日出席の教職員一同一室に會して、茶菓の卓を共にしながら、教務その他に關して懇談するところあり、午後四時散會した。



尚ほ同校の帽章を、中村良之助氏發案の下に上圖の通り決定した。

**佐竹理事陞叙**

本學理事法制局長官法學博士佐竹三吾氏は今回勳三等に叙せられた。

**本學關係者の佛國勳章受領**

去月下旬佛領印度支那總督メルラン氏の來阪を機とし、本學評議員左記三氏は、佛國政府

から、同國勳章グラン・オフィシエ・ド・オールドル・アン・ペリアル・ド・ドラゴン・ド・ランナム(Grand Officier de l'Ordre Impérial du Dragon de l'Annam)各一個を受領した。

**垂水理事の上京**

大阪朝日新聞社長 村山龍平  
 大阪毎日新聞社長 本山彦一

本學理事、關西甲種商業學校主事垂水善太郎氏は、過般東京市に於て開催せられた全國實業學校長會議出席のため、去月十九日上京同二十八日歸阪した。

**中村賛助員の榮轉**

本學賛助員中村榮藏氏は、今回大阪商船株式會社ロンドン支店長に榮轉せられた。

**岸田賛助員の榮轉**

本學賛助員岸田幸雄氏は、今回大阪海上火災保險株式會社東京支店長に榮轉せられた。

**夏期語學講習會豫報**

昨年七月二十日より同八月十日まで、本學夏期語學講習會を、福島學舎に開催し、この種の試みとしては最初であつたに拘らず、非常な効果を收め得たことは、當時の本誌に於て詳報した通りであるが、右結果に鑑み本年も亦同種の講習會を開催し、更に一層効果の大を期すべく、目下當局並に擔任教授間に於て、種種企劃しつつある。——詳細後報

**夏期學外講演豫報**

本學年中行事の一として、本年も亦夏期休暇を利用して、地方の團體その他有志の希望に應じ、各専門を有する本學教授諸氏を煩して學外講演を試みる筈であるが、講演題目、教授講師名は追て詳報することとする。

# 校友の面影

辯護士 武内作平氏  
衆議院議員 (明治二十二年法律學科出身)

氏は人も知る、關西法律學校を創設された本學第一回の卒業生である。郷里は愛媛縣今治市、廣島中學卒業後、笈を負ふて上阪し、本學卒業後は東京に出たが、不幸病の爲め一旦郷里に歸り健康の回復を俟つて明治二十八年再び上京、行政、經濟等の學を専心研究した。

明治三十年辯護士試験に及第するや、大阪北濱に法律事務所を開き、爾來引續き斯業に従事してゐるが、氏の學識才腕は夙に認められて、大正七年には大阪辯護士會會長に推された。氏が中央政界に乗り出したのは明治三十五年郷里愛媛縣より衆議院議員に選ばれたのが始まりで、大正九年及び今回の選舉には大阪市東區より打つて出で見事當選し、都合前後六回に亘つて引續き衆議院に議席を占めてゐる。而して氏が中央政界に重きをなしてゐることは現にその屬する憲政會に總務の重職にあるの一事を以ても明かで、我國憲政發達のために貢獻するところ亦甚だ大である。かく或は中央政界に、或ひは關西の法曹界に目覺しき活躍を續けてゐる氏は、更に實業の方面にもその巨手を延し、朝鮮勸業信託株式會社、東華紡績株式會社、日本印刷製本株式會社の各取締役、大阪土地建物、岡山電氣軌道、日本冷蔵、大阪米穀取引所、阪堺電鐵、仁川米豆取引所等諸會社の各監査役をつとめ、將來益發展せんとする勢を示してゐる。

趣味としては多少酒も嗜み、園藝・小鳥の飼養なき悠揚迫らぬ英雄の面影を示し、家庭には一男一女あり、母堂亦八十二の高齡を保ちつつ故郷の地に健在の由である。白髮緒顔、炯炯たる眼光の中に一脈の親しみを見せながら氏は語る、

『政治や法律を學んでゐる學生が、政治運動



武内作平氏(上)板  
野友造氏(下)の照

い。因に氏は又監事の一人として本學のために盡すところ大なるものがある。

辯護士 板野友造氏  
衆議院議員 (明治二十九年法律學科出身)

氏は岡山縣吉備郡足舟町の産、本學卒業後、明治三十四年に判檢事登用試験に及第、高松士裁判所に奉職する半年、明治三十五年十二月以來大阪に辯護區の事務所を開いてゐる。その公的生活は大正二年六月大阪市會議員に選ばれたのに始まり、同六年再選、市會副議長に推された。超えて九年一月、故白河代

に關係するのはさして咎むべきであるまい。殊に憲政擁護に云ふやうな目標の下に、青年の純真な熱情を以て活動することは寧ろよいことであると思ふ。但し心しなければならぬことは、さう云ふ純真な青年の運動は純であるだけそれだけ老獪な一部政治家に利用せられ易く、その間世の誤解を招き、青年自らも不眞面目に陥り易いことである。この弊さへ除き得るならば青年學生の純真な考へからの運動は差支あるまい。徐ろに口を閉じた氏、やがて氏が近き將來にその胸底に秘めた經綸を縦横に發揮するの日を期待するのは獨り吾人のみではあるま

議士の補缺選舉に當選し、同年五月再選、更に今回の選舉に三たび當選の光榮を贏ち得た。資性直情徑行、威武に屈せず、黄金に飾を變へず、常に清貧に甘んじてゐる清廉潔白の士である。従つて往往人の誤解を受けることもあるが、又一面斷えずその風を慕ふて相集る有名無名の擁護者も多い。這般の選舉に際しても最も金を少く使つたこと謂はれるのは氏であつて、即ち氏の當選はその人格の力ミ家の子郎黨が氏のためになした獻身的運動の結果に外ならない。氏自身も亦その點に於いて一味相通する犬養木堂の率ゆる革新俱樂部の利かけ者、政界革新の要が叫ばれる今日、氏の如き剛直の士を議會に送り得たことは、吾人の以て誇すべきところであらう。生憎不在であつた氏に代つて夫人はつつましく語る。

『主人は今年五十一歳になりますが、少し過ぎる方で、別にこれさう趣味もございませぬ。唯あゝして政治にたづさはつて居りますので、その方の研究をするのさ、も一つは書生を養ふことを樂みさう云へば樂みさしてゐます。子供がないからかも知れませんが主人が書生の心配をすることは一通りでありませぬので、宅でも法律事務のこまをやつて呉れてゐる人が二三人もありますが、決して事務員等とは呼ばせませぬ。そして一人前になりましてからも、辯護士の家だからさう云つて必ず法律々やらせるさう云ふこともなく、各自自分の好む方、適する方へ發展するやう努めてゐます。もう獨立してやつてくれる人が四五人もありますが、主人はさう云ふ人の自慢をするのがくせで、よく人様から板野は書生自慢が道樂だなき言はれます。ですから宅へ来る人は皆よくこちらの心を知つてくれまして、物質に走つたり新しい思想にかぶれたりすることもなく、私の口から申すさ變ですが大變圓滿に美しく參つて居ります。今度の選舉の時にもさう云ふ人達が集つてくれまして……』

夫人の話を聞いてゐる中に直言直行、内に顧みて直ければ千萬人さ雖も我行かんさ云ふ志士の胸にも、尙ほ温き愛さ情の血が脈打つてゐることを筆者は感じた。

# 校友彙報

## 横井校友の大阪市 美術展覽會入選

大正十年度商科出身の校友横井亮祐氏はこの度の大阪市美術展覽會に『難波橋附近』と題する油繪を出品して目出度く入選した。法律や商業を研究する學校からかうして藝術の方面にも頭角を著す人を出したことは蓋し異例として特筆に價ひするものがあらう。

## 校友住所移動

- 小林英俊 (明四三法) 東京府下北豊島郡西巢鴨町集鴨庚申塚二五七
- 淺川靜一 (天二三法) 熊本市内坪井町一六〇
- 右戸宮治 (天五法) 東京府下巢鴨町宮仲一九一三
- 望月靖彦 (天二三經) 静岡市片羽町三三
- 河村宣介 (天一〇商) 京都帝國大學經濟學部
- 安岡伸稔 (天二法) 北區川崎町五三
- 河合 浩 (天二經) 兵庫縣西宮町池田鈴木方
- 船越盛人 (天二經) 兵庫縣三原郡湊村
- 片田 貢 (天二經) 西成郡葛洲町南浦江五八三
- 野田健太郎 (天二三法) 北河内郡三級村字西橋波
- 平田 勉 (明四四商) 東京府上尾久町山谷一七二
- 和田右膳 (天七法) 和歌山市五番町二番地
- 今野勝久 (天二法) 神戸市東須磨才ノ池下二ノ二五
- 富家逸郎太 (天九法) 東京市外下濵谷九五九峰巢方

勢川久一 (天八商) 北區天満橋筋西三丁目七三

松下 保 (天二商) 神戸市平野矢部町一九橋本方

別木靜哉 (天九法) 大分縣北海部郡神崎村十字園

渡邊夏三郎 (推) 大分縣別府市北町七二〇ノ一

藤田信雄 (天二三經) 北區上福島北二丁目三九清靜館内

平野利吉 (天二法) 西區江戸堀南通一丁目

岡本瀨一 (天一〇法) 高知市新形武揚協會前

堂本源吉 (明三〇法) 埼玉縣川越市小仙波町三九一

山口直三郎 (明三三法) 山形地方裁判所官舎

大月義平治 (明三四法) 福井地方裁判所

深川澄夫 (明三七法) 西區北堀江三池通一丁目一七

大川光三 (天二經) 東區北新町二丁目三四

中西靜麿 (天二經) 名古屋市中區御器所町島西浦四四

中村敬直 (天二商) 福岡市上西町福助足袋株式會社九州支店

大石龍氣 (天四法) 泉北郡高石町宇南葛ノ葉駅前

佐伯辰巳 (天一〇商) 神戸市御屋敷通兵庫電氣軌道株式會社

西本寛一 (天二法) 西區境川町一丁目三一

野村卓二 (天二商) 市外豊中村新苑三五

西家宇平 (天一〇法) 西成郡千船町大和田五二九

## 校友改姓名

- 大〇法 (舊) 日高宇平 (新) 西家宇平
- 小林良三郎 渡邊良三郎

## 關西大學理事 垂水善太郎氏 還曆及勤績三十七年記念會に就て

關西大學が今日の隆運を見るに至りたる基因一にして足らずと雖も校友垂水善太郎氏が三十有餘年の長きに亘り終始一貫同學のために盡瘁せられたる功績は少くともその一因たるべく、従つて關西大學が同氏に負ふところ又鮮少なりと言ふを得ず。

氏が甫めて關西大學に勤務するに至りてより今や實に三十有七年、その間自己榮達の念を去り生涯の大事を同學に捧げ齡已に還曆に達す。吾人は深く同氏の功績を思ひこれを表彰すると共に、その還曆を祝せんがため茲に本會を起し大方の御同情に訴へ左記事業を行はんとす。希くは奮て御賛同あらんことを。

### 一、寄附金額

五圓以上とし贈呈の方法は在阪發起人御一任を乞ふ

### 二、祝賀詩文

右寄附金と共に左記還曆に關する詩歌俳句等を寄せられたし

### 一、垂水氏の還曆に因みて

〇、垂水氏の三十七年勤績に困みて

### 三、締切及發表

寄附金及玉稿は大正十三年七月三十日迄に大阪市北區福島關西大學内垂水氏記念會宛御送付を乞ふ入手と同時に領收書並に謝狀を拜送し更に「千里山學報」に發表す

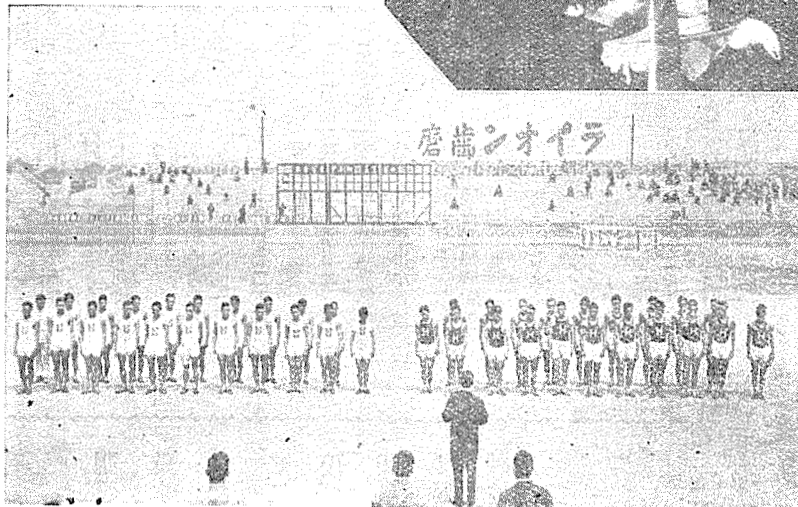
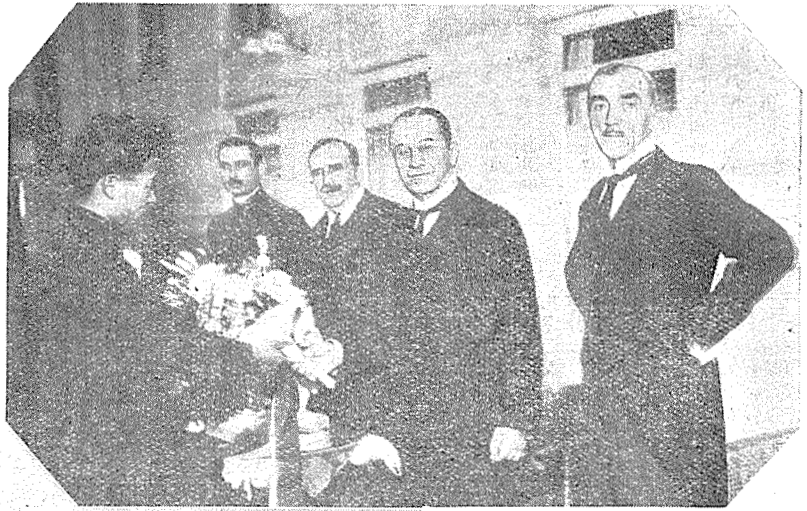
大正十三年六月

垂水氏還曆及  
勤績三十七年  
記念會發起人一同

# 各 方 面 に 於 け る

(詳細は學生彙)

佛領印度支那總督メルラン氏夫人並  
に駐日佛國大使クロードル氏夫人へ  
の本學學生のブーケー贈吉



技政大學對本學對抗陸上競  
法大會選手入場式



同上兩軍主將開戦の握手



同上兩軍選手並に應援團

# 本學學生の活動

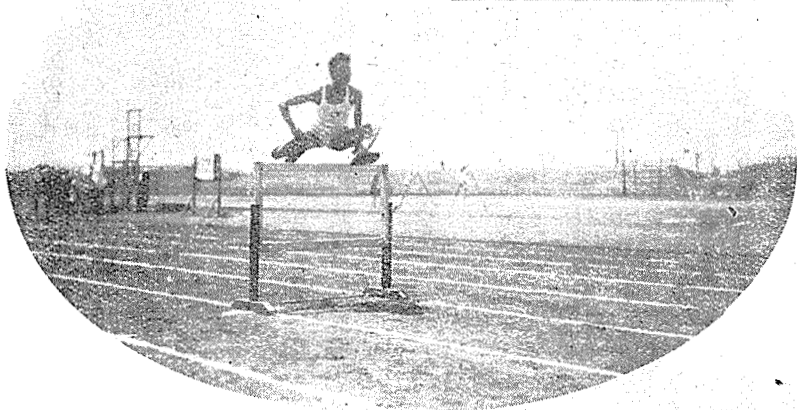
(報欄記事參照)



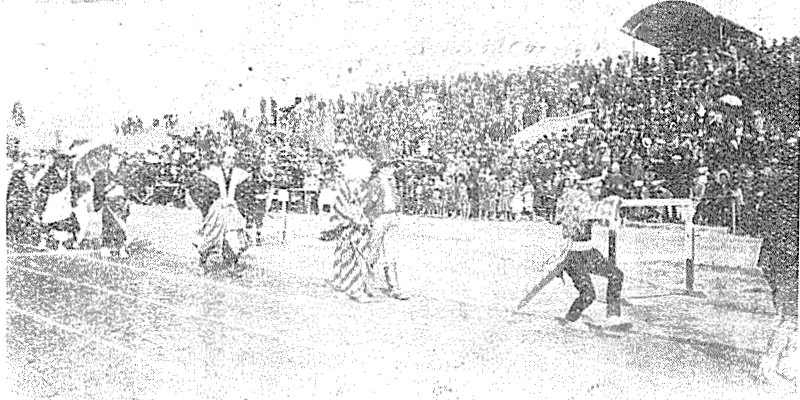
佛領印度支那總督メルラン氏一行と本  
學學生



福島學友會自治十周年記念  
運動會に於ける對科リレー  
優勝花輪授與



同上金田選手の跳躍振り



同上假裝行列と場を埋める大觀衆

### 學生彙報

#### 千里山野球部報

春季リーグ戦後報 大阪毎日新聞後援の同志社大學、關西學院高等部及び本學との間のリーグ戦は、その後左記の通りに行はれたが結局本學今回の成績は二勝二敗であつた。

#### 對同志社大學第一回戦

五月六日於寢屋川球場 一一三 本學勝

#### 對關西學院高等部第二回戦

五月九日於寶塚球場 五一 本學敗

#### 對同志社大學第二回戦

五月十八日於寢屋川球場 六一〇 本學勝

#### 三菱造船に勝つ

神戸實業野球團の雄三菱造船と五月二十五日午後三時半より寶塚球場に於いて戦ふ。球審横澤壘審戸川本學先攻、接戦の後三對二で本學の勝利に歸す閉戦五時三十分、兩軍のメンバーは次の通りであつた。

田川藤政 好澤田村 失策 二

林森菊 近金高横 鈴木 盗塁 一

本 5 4 9 7 6 3 8 1 2 打安三機盜失

村滝瀬 卷田井本 澤崎 四死打壘策

川友百八 淡坂石 鷺王 三安四機盜失

6 4 7-1 8 5 2 9 1-7 3 打安三機盜失

和歌山遠征 超えて五月三十日、和歌山・海草兩俱樂部の招聘に應じて楠委員、田中マネジャー以下選手十六名和歌山に向つた。和歌

山着午後一時直ちに和中校庭に至り、同三時二十五分球審柳、壘審戸川和中先攻にて開戦、觀衆萬餘、試合亦緊張して大接戦を演じたが結局六對四で本學側惜敗した。翌三十一日は海草中學チームと同校校庭に相見え、球審玉川壘審和田の下に午後三時二十分本學先攻にて開始したが本學の猛襲當るべからず遂に二三對五にて本學の大勝に歸す時に午後五時四十分。

#### 千里山學部對科野球戦

去る五月八日學部一學年の諸君が千里山校庭でアマチニアの對科野球戦を行つた。最初法科對商科の試合を行つたが十四A對八で商科の勝利に歸し、次は經濟科對商科の試合に移つたが最初より商科が優勢で、結局十一A對四で經濟科を一蹴し商科が全勝の譽れをほしいままにした。近く經濟科對法科の試合を行ふ筈である。

#### 千里山水泳部新設

從來千里山學友會には水泳部がなかつたのであるが、此の度有志諸君の盡力により愈學友會運動部の一部として水泳部が新設されることになつた。委員として山崎峯雄、江里口正行の二君がその衝に當ることになつた。

#### ア式蹴球部東京遠征

近時頼に名實併せ揚つた千里山蹴球部は愈第一回の東京遠征を決行することになり、去る五月二十九日角田マネージャー引率の下に梶浦主將以下十六名、多数校友、學生に見送られ、午後六時五十分大阪發の汽車で東京へ向つた。着京後は早大・法政・明治・アストラ・一

高・農大の各蹴球部と一戦を試み、歸途名古屋に立ち寄つて八高及び高商、高工とも試合をし六月六日頃歸阪の筈であるが、その後報告のあつた戦績は左の通りで、いづれ詳細は同部の歸阪を俟つて報道することとする。五月三十日 法政大學と戦ひ零對零で無勝負五月三十一日 アストラ蹴球團と青山學院グラウンドに試合、一對〇にて本學の勝利に歸した。

六月一日 午後四時より峰岸氏審判の下に東京帝大と戦ふ。東大のキックオフで開始したが結局三對零で本學の勝、兩軍のメンバーは左の通りであつた。

- 大 本井縣 本保 浦宅 磨田 井田
- 關 松有山 岡久 梶三 播谷 永寺
- C LB RB LH CH RH MW LI CF RY RW
- 大 上 本田野 木原 島本 木村
- 東 村林 山堀 杉鈴 塩中 岸將中

#### 新進氣銃のラ式蹴球部

千里山ラ式蹴球部は組織後日尚ほ淺きに拘らず新學期來次のやうな好成绩を擧げてゐる。五月十日午後四時より北野中學校庭に於いて神戸、セール、フレザイ蹴球團と戦ひ十八對〇にて大勝。

又同月十四日午後四時より同所に於いて北野中學と戦を交へ猛雨を冒して奮戦、これ亦一對〇のスコアで大勝を博した。

メンバー及び補缺は左の通りで尙來る今秋のシーズンを期待して懸命の練習を重ねてゐる

- 田木 東村地 星野本 井田
- 野 東小三 岡伊山北 二嶋 稻實 泉石 原
- F.W. H.B. T.B. F.B.
- 補缺 堤、喜多、森田、藤尾、井上、粟並
- 本學陸上部員の法政
- 大學陸上部員歡迎

別項所報去月三十一日法政大學對本學陸上競技大會開催に先ち、同月二十八日午後七時五十分、法政大學陸上部小林部長以下二十一名の部員一行が、大阪驛に到着するや、本學陸上部では櫻井部長以下部員總勢で、これを驛頭に迎へ、直ちに中之島大阪朝日新聞社の集會場に於ける同社の歡迎會に出席した。

#### 法政大學對本學陸上競技大會

法政大學對本學の陸上競技大會は前號豫報の通り、去月三十一日午前十時から、市内港築市立運動場に於て、大阪朝日新聞後援の下に開催せられた。

定刻厳肅裡に兩大學の選手入場式舉行せられ宮島本學學友會副會長の挨拶があつて、愈競技に入り、兩軍一勝一敗大接戦の末三十二點半對三十點半の戦績で本學側の勝利に歸し、大阪朝日新聞社寄贈の優勝旗は本學選手の手授けられた。

尙ほ當日は前記宮島氏の外、山岡本學總理事、伊藤鐵五郎氏、櫻井陸上部長、岩崎教授、水谷教授、辰巳講師、松田講師等も來會して選手を鼓舞激励し、本學學生亦各部大部分を擧げて終始力強き聲援を與へた。因に主なる戦績は左記の通りである。



(百メートル) 二等酒見法)、二等福田(關)、三等花谷(關)。(走幅飛) 二等伊藤法)、二等花谷(關)、三等金田(關)。(千五百メートル) 一等岸(關)、二等小川(法)、三等松葉(關)。(圓盤投) 一等永田(關)、二等福永(法)、三等下村(法)。(低障礙) 一等金田(關)、二等笹盛(法)、三等上田(關)。(五千メートル) 一等青木(法)、二等渡邊(法)、三等高木(法)。(槍投) 一等福永(法)、二等宇津木(法)、三等南浦(關)。(四百メートル) 一等小川(法)、二等岸(關)、三等伊藤(法)。(走高跳) 一等上田(關)、二等金田(關)、三等宇津木(法)。(棒高跳) 一等谷上(關)、二等五十嵐(法)、三等西田(關)。(メドレー) 一等關大(花谷、金田、岸、福田)、二等法大(笹盛、伊藤、小川、酒見)。

尚ほ本競技大會開催に當り、左の通り寄贈があつたことに對し、本學陸上部員一同の感謝の意をこゝに表して置く。

競技大會用各種印刷物 辻田商店  
宣傳用ポスター一千枚 中山太陽堂  
ペナント一流 運動屋運動具店

**千里山陸上部優勝**

六月一日京都帝國大學主催の運動會に選手を派遣した同部は、大學、専門學校千六百りに一に福田・金田・松葉・岸の四選手を出場せしめ、見事一着となり榮譽の優勝旗を贏ち得た。當日は別報法政大學との對抗競技に疲勞し切つてゐるにも拘らず、選手努力は云はずもがな、部長、マネージャー以下各大會に列して聲援これ努めてゐたのは、陸上部の協團一致の精神が如實に流露したもの云ふべく、誠に快くも美しき極みであつた。

**商學部學生のメルラン  
佛領印度支那總督歡迎**

這般日佛兩國の國交に關する重大な使命を帯びて來朝したメルラン總督一行に歡迎の意を表する爲め、商學部學生三十餘名は宮島教授、賀來講師に伴はれて五月二十一日午前十時大阪ホテルに同總督を訪問した處、總督は喜んでクローデル大使と共に一同を階下のバルコニーに引見した。商學科三年加藤金次郎君が左の如き歡迎文を朗讀して花束と共に贈り、總督はそれに對して大要左の如き答辭を述べ、學生一人一人と握手して感謝の意を表した。

學生代表歡迎文

Osaka, le 21 mai 1924.  
Monsieur le  
Gouverneur Général,

Au nom des étudiants de la Faculté de Commerce à l'Université de Kansai, j'ai l'honneur et le grand plaisir de vous présenter mes meilleurs souhaits de bienvenue et mes plus respectueux hommages.

Notre Université, établie en 1886 dans le but d'enseigner le droit français, a contribué dès la fondation, pour sa part, à la propagation de votre belle langue. Elle est pour rappeler les termes mêmes dont s'est servi S. E. M. Claudel, Ambassadeur de France à Tokio, lors de sa visite à notre institution il y a deux ans-toute imprégnée des traditions françaises.

Veuillez croire que vous, qui êtes venu au Japon en mission économique, et qui avez bien voulu visiter particulièrement la ville d'Osaka, noyau de l'activité économique du Japon, serez l'objet des plus vives sympathies et des plus touchantes attentions de la part des étudiants qui approfondissent avec tant d'intérêt les belles théories économiques des savants français dans une Université historiquement si francophile, et qui, leur étude une fois accomplie, joueront un rôle important dans le domaine commercial.

Permettez-moi de profiter de cette heureuse occasion pour vous exprimer de tout coeur le vœu que les relations économiques entre la France et le Japon se nouent chaque jour davantage au profit commun de nos deux peuples, et que les relations industrielles et commerciales aient pour effet de resserrer de plus en plus les liens moraux et intellectuels entre les deux pays.

Je vous prie d'agréer, Monsieur le Gouverneur Général, l'expression de ma profonde estime ainsi que les vœux que je forme pour le brillant succès de votre mission au Japon et la prospérité toujours plus florissante de la noble France.

K. KATO  
Représentant des Etudiants de la  
Faculté de Commerce  
à l'Université de Kansai

Son Excellence  
Monsieur Martial Merlin,  
Gouverneur Général de l'Indo-Chine Française  
à OSAKA.

**メルラン總督答詞**

Osaka, le 21 mai 1924.  
Aux étudiants de la Faculté de Commerce de l'Université, j'adresse mon salut le plus chaleureux et je les félicite de travailler à l'étude toujours plus étroite et plus cordiale des deux grands peuples Français et Japonais.

**千里山學友會委員任命式**

千里山學友會委員は左の如く決定し五月三十日正午から任命式を行ひ、宮島副會長からそれぞれ辭令を交付した。

文藝部委員  
鈴木良助(商三) 加藤金次郎(商三)  
山崎敬義(法三) 久保英一(商一)  
倉橋巖二(豫三) 服部實(豫二)

**運動部委員**

相撲部—中山寅造(豫三)、原田滿(豫三)  
野球部—楠正臣(商三)、高田貫左右(法二)  
庭球部—館秀雄(商三)、宮田平三(豫三)  
ア式蹴球部—角田好太郎(法二)  
ラ式蹴球部—米田浩三(法二)、辛島甫(豫三)  
陸上競技部—野原修五郎(經一)、澤田捨次郎(豫二)、野澤佳郎(豫二)、山田清太郎(豫二)

水泳部—山崎峯雄(法二)、江里口正行(法二)  
武術部—植野壽夫(法一)、中村良之助(經一)、道明一青(豫一)  
ボクシング部—木村鹿男(法二)

**經濟學研究會例會**

主として千里山の學生よりなる經濟學研究會は五月十四日午後一時より沖中講師宅で例會を開いた。

一我國の金利引下方策に就いて  
商科一年 水島 有年  
政治科二年 菱川 順介

の兩君の研究報告あり、會員各自のディスカッションの後沖中講師の批評を聞き、更に今後の研究方法、それについて學校の與へた便宜を如何に利用すべきか、並に新會員の募集方法等を協議して薄暮散會した。

**千里山エスペラント研究會**

近時凡ての思想、制度について國際的傾向が益濃厚になつて來るに伴ひ、最も學び易い國際語エスペラント、及び國家や民族を超越したエスペラント主義は我國に於いても漸次普及しつつあるがこの度、江里口(法一)、川長

(商一)の諸君の盡力によつて本學にもエスペラントの研究會が組織された。現在のところ毎土曜日に例會を開いて會員諸君の熱心な研究が續けられてゐるが、追追知名のエスペラントイストを聘して一層の發展を圖る筈である。

英語會福島總會

本學英語會では永らく外遊中であつた會長岩崎教授の歸朝歡迎を兼ね福島に於ける本年度第一回總會を六月二日午後八時より第一教室に於いて開催した。劈頭司會者岩岸幹事の開會の辭に次いで會長岩崎教授の挨拶あり官島教授、櫻井副會長の各一場の談話があつた後、新會員の入會を受け今後の方針を協議して十時散會した。新入會者多數あつた由で尙ほ今後共入會を歡迎する由であるが、参考のため會則を掲げるに次の通りである。

關西大學英語會會則

- 第一條 本會ハ關西大學英語會ト稱ス
- 第二條 本會ハ英語及ビ英文學ヲ討究シ特ニ英語ノ實用ヲ獎勵シ併セテ會員ノ親睦ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第三條 本會ハ事務所ヲ千里山關西大學内ニ置ク
- 第四條 本會ハ會員ヲ名譽會員、特別會員及正會員ノ三種ニ分ツ、名譽會員ハ本會ノ爲ニ功勞アリタル名士ニシテ本會役員會ニ於テ推薦シタルモノ、特別會員ハ關西大學教職員ニシテ本會ヲ後援スル者、正會員ハ關西大學學生ニシテ本會ノ目的ヲ贊助シタル者
- 第五條 本會ニ會長一名、副會長一名及ビ幹事若干名ヲ置ク。會長及ビ副會長ハ特別會員中ヨリ之ヲ選出ス

幹事ハ正會員中ヨリ會長之ヲ指名ス  
會長副會長及ビ幹事ハ關西大學理事ノ一人ヲ加

ハ役員會ヲ組織ス。役員ノ任期ハ一ケ年トス  
第六條 會長ハ本會ヲ統理ス  
副會長ハ會長差支アル時之ニ代ル、幹事ハ會長又ハ副會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ掌理ス

第七條 本會ハ其ノ目的ヲ達スル爲メ毎月二回英語及ビ英文學ニ關スル實用的研究ヲナシ一年二回英語演説及ビ英語劇演習會ヲ開ク  
第八條 本會ハ正會員ヨリ會費トシテ年額金壹圓也ヲ毎學年ノ始メニ徴ス  
第九條 正會員ニシテ本會ノ利益ヲ阻害スル者ハ其ノ理由ノ如何ヲ問ハズ之ヲ除名ス

尙千里山に於いても來る六日同様の會合を開く豫定である。

千里山學内辯論大會

去る五月三十日午後二時より千里山第九教室に於いて第一回學内辯論大會が開かれた。學生の參會するもの多數で頗る盛會を極め、痛烈な彌次や滑稽な半疊が込つて元氣潑潑たるところを見せて居た。

終つて辯士一同の懇談會を催し和氣霽霽裡に解散したが尙當日の順序は左の通りであつた

- 一、開會の辭 委員 山崎敬義君
- 一、殺伐的氣風の流行 豫一 太田 收君
- 一、公娼制度と法的考察 法二 武 眞 操君
- 一、破壊?建設? 豫三 清水正 秀君
- 一、美の極致 政三 平 尾 有君
- 一、雄辯の要 豫一 中 尾 長君
- 一、日本國民に懃 法三 小 鹿 義 治君
- 一、未 定 豫三 宮 田 平 三君
- 一、社會改造の黎明へ 法三 吉 田 奎 文君
- 一、友人の退校處分より現代教育者を駁す 法三 芳 野 又四郎君
- 一、生命の前には 政三 峯 浦 重 起君
- 一、經濟と道德とは兩立し得るか 商三 加 藤 金次郎君

一、社會生活の究極と法律 法三 山崎敬義君  
委員 加藤金次郎君

福島文藝部學内雄辯大會

福島文藝部では新學期と共に組織に一部の改造を加へ、辯論部を編制し幹事杉山志敏君専ら同部の事務を掌つてゐるが、去る五月三十一日福島學友會自治十週年紀念の學内雄辯大會を午後六時から天王寺公會堂に於いて開催した。恰も御成婚饗宴の當日で人の出足も繁く、聴衆堂に溢れ頗る盛會であつた。プログラムは左の通りであつた。

プログラム

- 一、開會之辭 幹 事 古 郡 恒 雄君
- 一、溢れ出でんとする血潮を壓へて 豫 科 松 井 廣君
- 一、惡夢より醒めよ 文 科 星 野 武 二君
- 一、華族制度を如何せん 經濟科 北川 猪四馬君
- 一、四人轢死事件に直面して 法 科 阿 部 要君
- 一、虚げられたる女性の爲に 商 科 森 田 正 芳君
- 一、魂の黎明 經濟科 三宅 万 吉君
- 一、國難到來は誰の罪か 商 科 石 田 三 郎君
- 一、司會者挨拶 文藝部長 岡 本 勇君
- 一、鬭争の文化より愛の文化へ 法 科 野 坂 眞 三君
- 一、瓦の光 經濟科 森 永 清 晃君
- 一、生命の舞踊 商 科 井 上 全 治君
- 一、文明と平和の將來 法 科 吉 松 俊 之助君
- 一、總理大臣たらんとする所以 辯論部長 杉 山 志 敏君
- 一、洞窟の偶像 教 授 服 部 嘉 香氏
- 一、閉會の辭 幹 事 松 井 慶 次郎君

福島防長會總會

山口縣出身者を以て成る同會は去る五月六日福島學舎に於いてその本年度第一回の總會を開いた。會する者五十餘名、役員の改選を行ひ左の如く決定したる後、當日出席の前會長廣實郡雄氏の挨拶あり、更に本年度の事業殊に夏期休暇中文化講演會を開くことについて詳細協議するところがあつた。

會長 岡本竹松君(法三)、幹事 八田義直君(經三)、西田三郎君(商二)、國延守一(經二)、森田正芳(商一)

正 誤

- 前號學生彙報「福島學友會幹事氏名中」
- 一、總務部員とあるは總務部の誤
- 二、運動部員(法三)桐野準平とあるは(商三)桐野準平の誤に付各訂正す、尙
- 三、運動部員中に(法三)妹尾光泰を追加す

福島岡山縣人會春期總會

同會では去る五月七日本年度新入學生歡迎の意を含めて午後八時より福島學舎に於いて春期總會を開催した。出席者約五十名役員選舉、本年度事業の打合せを了して後、或ひは談話に或ひは討論に、一同歡を盡して同十一時散會した。尙當日は講師高木益朗氏も參加、一場の挨拶を以て會員を鼓舞するところがあつた。本年度幹事は藤本龜(法三)、尾崎秀次郎(經三)、杉山志敏(經三)、森永清晃(經三)、桐野準平(商三)、三宅萬吉(經二)の諸君である。

千里山短歌會五月例會

過般千里山學舎で開かれた千里山短歌會五月例會の詠草次の通りである。

ちねの海に吾は来にけりなにかもなきの春は  
冷かりけり。

カーテンにうつれる黒き人の影やがて動きて燈消  
へる。

人待つにあられどいたむ心かな淋しきまでに空す  
める朝。

なやましき心の前の黄昏をよなきの花は白くこび  
ゆく。

夜ご見る青き光のシグナルの闇にすむ見ゆわが  
淋しさのこと。

眞顔にて手を振り唄ふ狂者あり灯あか／＼こぼる  
初春の街。

散る花に古き都を墨染の雛僧あはれ二月堂の春。  
春の日はうすく流れて旅僧の誦する和讃や聲静か  
なり。

言はうこの敷重りて逢見れば黙してやみぬ戀は  
奇しきもの。

萍のごさる池に青蛙たゞ一つ浮く五月雨のあと  
北村 兼子

長江のたなぞく春の霞より行き交うジャンク心長  
閑けし。(楊子江にて)

寒山寺柳の枝に日は暮れて吾のる驢馬の鈴のさび  
しも。(蘇州城外)

松並木たゞ翠なるその中に一本紅き春楓かな。  
公園の晝を静けみひや／＼けき池のあさぎに鶴立ち  
て居り。

一むらのあしのごまの朝づく陽松の葉色もか  
やきて見ゆ。

教へ子を叱りさばしてわれもまた本にかくれてむ  
せび泣きしぬ。

春の日の雨じき降れば戸袋の黄色ぞしき山吹の花  
水島 有年

窓越にながむる櫻春の宵寝るに惜しき月夜なりけ  
り。

刑法の講座へ蝶の舞ひ来る千里の山を無比の學園  
牧山 儀平

そよ風に堪へがたげなる小雀の胸毛にはゆる春日  
影かな。

草萌ゆる千里の山に夏來ぬとひさしきりなく蟬の  
聲かな。

一人行く旅は愁はしむるこゝを焼く香の匂ふ村の  
夕暮。

連れだちて上野の森に語らひし春の一夜の忘れが  
たなり。

硝子戸をゆるする夜風の音さびし夜床に一人めざめ  
てあれば。

罪もなき妻を叱りて假初に敗殘の身の悲しみ醫や  
す。

下髪に蝶形りばん赤き帯妻よ少女となりて見ゆ  
早川 講師

羽を得て友等舞へども白妙の繭にこもりて夢を見  
るわれ。

團樂の明き灯さるる家車のなかに窓いさ暗きわが  
家。

目的もなく暗き街を選びては歩むころるとなり  
たるかわれ。

初夏の茜にい照る青海の沖へ帆並めて舟歸りたり  
やるせなく過ごはつるか吾が若き日に逢ふこと  
のしげきまに間に。

悲しき日悲しき春よなたれて送る柩に夕櫻散る  
(妹の靈に)

このあたり桃色の壁の家ありしなご思ひつ焼け  
し町ゆく。(東京にて)

爪切るさわが足の指引きよせて不可思議の形見入  
りわびしむ。

齒の痛みいさ／＼かはよ痛みごころ頼に抑へて物  
なご思ふ。

福島運動部陸上運動會

福島學友會自治十週年記念の陸上運動會は去  
る五月十八日午前十時から築港市立運動場に  
於いて開かれた。夜來の雨も霽れた絶好の運

動日和、出雲屋少年音楽隊の奏曲に一層興を  
添へて、スタンドは紅紫ざりざりの觀衆を交  
へ頗る盛會であつた。

大體の記録は次の通りであるがその外來賓の  
繪摺みや盲目競争、水運び、服装競争、假裝  
行列など特に衆目を惹き、最後に各優勝者へ  
の賞品授與があつて、午後五時半終つた。後  
櫻井審判長以下役員の勞を慰する爲め金水樓  
で小宴を張つた。

◎トラック

八百米決勝一着吉岡丈夫(經一)二  
分十四秒五分ノ二

四百米決勝一着吉岡丈夫(經一)一  
分五秒ノ三

二百米決勝一着三橋法(二)二十四秒五分  
ノ一

五百米決勝一着松原徳二(文)一分五分  
ノ一

一キロ米決勝一着南浦(大)二分二十六  
秒ノ一

二キロ米決勝一着吉岡丈夫(經一)五  
分十七秒ノ二

三キロ米決勝一着三橋法(二)二十四秒五分  
ノ一

四キロ米決勝一着松原徳二(文)一分五分  
ノ一

五キロ米決勝一着南浦(大)二分二十六  
秒ノ一

六キロ米決勝一着吉岡丈夫(經一)五分  
十七秒ノ二

七キロ米決勝一着三橋法(二)二十四秒五分  
ノ一

八キロ米決勝一着松原徳二(文)一分五分  
ノ一

九キロ米決勝一着南浦(大)二分二十六  
秒ノ一

十キロ米決勝一着吉岡丈夫(經一)五分  
十七秒ノ二

千里山億相撲練習場新設  
この度千里山相撲部選手の常設稽古場として  
本學假講堂敷地の南側に縦六間半横四間半約  
三十坪の練習場を造るこゝになつた。同所は  
設備を完全にして雨天でも稽古の出来るやう  
にする筈であつて、完成の曉は從來から名を  
得て居る我が相撲部は一層その實力を高める  
であらう。

福島水泳部新設  
今春千里山運動部に水泳部の出來たこゝは別  
報の通りであるが、福島運動部に於いても今  
回水泳部を新設し練習場として新淀川筋阪急  
鐵橋上流の南岸知多游泳會淀川水練場に隣接  
して、流水面、幅三十間、長さ一町の水泳場  
及前記堤防下に幅十五間、長さ二十間の脱衣  
場を設け、七月五日より八月三十一日迄同部  
員並びに一般本學學生の使用に供する。

因に同部事業豫定としては七月下旬京都宇治  
より大阪中央部までの遠泳、同下旬九州地方  
遠征、八月中旬大阪灣内の遠泳等である。

本學學生の奉祝提灯行列  
去る五月三十一日から數日に亙つて行はせら  
れたれ皇太子殿下御成婚の御慶宴を奉祝するた  
めに、福島學舎の學生は六月四日午後七時半  
から奉祝提灯行列を行つた定刻運動場へ參集  
した。數百の學生は手に手に白く日の丸をぬ  
いた紅提灯を携へながら、隊伍を整へて校門  
を出で、折柄祝賀の假裝行裂や電燈飾で湧き  
返る市内を堺筋に出で、更に南下して天王寺  
公園に至り、皇室の萬歳を三唱して解散した。

去る六月四日午後商學部第二・三學生學生は  
商業實地研究の爲め、服部教授及び須藤講師  
引卒の下に大日本麥酒株式會社吹田工場を見  
學した。尙當日は宮島・村上・櫻井・中村・中島  
の諸教授も一行に加つた。

商學部學生の麥酒會社見學

去る六月四日午後商學部第二・三學生學生は  
商業實地研究の爲め、服部教授及び須藤講師  
引卒の下に大日本麥酒株式會社吹田工場を見  
學した。尙當日は宮島・村上・櫻井・中村・中島  
の諸教授も一行に加つた。

去る六月四日午後商學部第二・三學生學生は  
商業實地研究の爲め、服部教授及び須藤講師  
引卒の下に大日本麥酒株式會社吹田工場を見  
學した。尙當日は宮島・村上・櫻井・中村・中島  
の諸教授も一行に加つた。

去る六月四日午後商學部第二・三學生學生は  
商業實地研究の爲め、服部教授及び須藤講師  
引卒の下に大日本麥酒株式會社吹田工場を見  
學した。尙當日は宮島・村上・櫻井・中村・中島  
の諸教授も一行に加つた。

去る六月四日午後商學部第二・三學生學生は  
商業實地研究の爲め、服部教授及び須藤講師  
引卒の下に大日本麥酒株式會社吹田工場を見  
學した。尙當日は宮島・村上・櫻井・中村・中島  
の諸教授も一行に加つた。

去る六月四日午後商學部第二・三學生學生は  
商業實地研究の爲め、服部教授及び須藤講師  
引卒の下に大日本麥酒株式會社吹田工場を見  
學した。尙當日は宮島・村上・櫻井・中村・中島  
の諸教授も一行に加つた。

去る六月四日午後商學部第二・三學生學生は  
商業實地研究の爲め、服部教授及び須藤講師  
引卒の下に大日本麥酒株式會社吹田工場を見  
學した。尙當日は宮島・村上・櫻井・中村・中島  
の諸教授も一行に加つた。

去る六月四日午後商學部第二・三學生學生は  
商業實地研究の爲め、服部教授及び須藤講師  
引卒の下に大日本麥酒株式會社吹田工場を見  
學した。尙當日は宮島・村上・櫻井・中村・中島  
の諸教授も一行に加つた。

去る六月四日午後商學部第二・三學生學生は  
商業實地研究の爲め、服部教授及び須藤講師  
引卒の下に大日本麥酒株式會社吹田工場を見  
學した。尙當日は宮島・村上・櫻井・中村・中島  
の諸教授も一行に加つた。

去る六月四日午後商學部第二・三學生學生は  
商業實地研究の爲め、服部教授及び須藤講師  
引卒の下に大日本麥酒株式會社吹田工場を見  
學した。尙當日は宮島・村上・櫻井・中村・中島  
の諸教授も一行に加つた。

去る六月四日午後商學部第二・三學生學生は  
商業實地研究の爲め、服部教授及び須藤講師  
引卒の下に大日本麥酒株式會社吹田工場を見  
學した。尙當日は宮島・村上・櫻井・中村・中島  
の諸教授も一行に加つた。

去る六月四日午後商學部第二・三學生學生は  
商業實地研究の爲め、服部教授及び須藤講師  
引卒の下に大日本麥酒株式會社吹田工場を見  
學した。尙當日は宮島・村上・櫻井・中村・中島  
の諸教授も一行に加つた。

### 懸賞論文發表

本誌創刊一周年を記念するために募集した懸賞論文が、まる一ヶ年を經過して更に二周年を迎へる今日漸く發表し得る云ふのは、何かの因縁さ言へば言へやうが、然し、豫定の發表期より半年以上も後れたことは、何れも私共の責に任すべきところで、應募者諸氏は勿論、一般讀者各位に申譯ない次第である。種種の事情に餘儀なくされたのである旨繰り返し述べて幾重にも御諒恕を希ふ。ここに右結果を掲載し、中特に優秀なる二篇のみを左に發表する。賞品は適宜の方法を以て、各入賞者に追て御送付する。こゝにす。

#### 二 等 (一人)

近代經濟學說の無産労働階級觀

校友(大ニ經) 内藤 勉 夫

引受人又は振出人に對する債務免除と裏書人の責任

法學部法律科第二學年 野村 滋 藏

#### 三 等 (二人)

關東の震災を體驗して現下の火災保險問題を論ず

法學部法律科第二學年 岩 岸 巖

經濟的動機と經濟組織の改造

校友(大ニ經) 有 住 眞

社會過程論

法學部政治學科第三學年

平尾 修 三

選外佳作

(九人)

錯誤の犯罪行為に及ぼす影響に就きて

法學部法律學科第三學年

片岡 益 雄

農村金融と其金融機關

專門部商業學科第二學年

山 本 義 一

羅馬法に於ける債權の物上擔保制一般

法學部法律學科第三學年

森 岡 研 二

十七憲法の法的價值を論ず

專門部法律學科第三學年

石山 豐 太郎

家族制度を論ず

校友(大ニ法) 西山 正 雄

因果關係に就て

法學部法律學科第三學年

岩 佐 恂 三

刑法上の因果關係に就て

專門部法律學科第三學年

淺 川 靜 一

遺約金契約の效力を論ず

專門部法律學科第三學年

山 崎 敬 義

陪審法と憲法論

專門部法律學科第三學年

江 口 忠 太

引受人又は振出人に對する債務免除と裏書人の責任

野村 滋 藏

爲替手形の引受人又は約束手形の振出人に對し其手形債務を免除したる手形所持人は裏書人に對しても該手形債權を請求することを得ざるや否やに關しては争ある所に屬す。先づ積極消極の兩説を掲げ然る後卑見を述べん。以下引受人と稱するは

爲替手形の引受人、振出人と稱するは約束手形の振出人の謂なり。

一、積極説 に依れば手形行爲は獨立なり裏書人は裏書に依り獨立の債務を負担したるものなるを以て引受人若くは振出人に對する免除の爲め其責任を免るるものにあらざつて所持人は尙ほ裏書人に對しては請求をなすことを得べしとす。

二、消極説 に依れば引受人若くは振出人と裏書人との責任は連帶なり故に主たる債務者たる引受人若くは振出人に對する免除は裏書人に其効力を及ぼすものなり従つて所持人はもはや裏書人に對しても其請求をなすことを得ず手形行爲者の責任の連帶に付ては手形法に明規する所なきも手形の振出若くは裏書は共に性質上の商行爲なれば正に商法二七三條の場合に該當するものなり即ち同條は數人が各別に時を異にして債務を負ひたる場合と雖も其債務が商行爲に因りたるときは常に連帶なることを規定したるものなり而して手形の振出人及び裏書人は何れも時を異にして商行爲をなせるものなれども其數人は共に全員の爲めに商行爲たる振出裏書の行爲により支拂若くは償還義務を負担したるものなれば前示法條により連帶責任ありと云はざるべからずとす。

三、卑見 余は消極説を採るものなれども其論據は右第二説とも異なり。

思ふに裏書人は裏書なる手形行爲に於いて單に手形所有權讓渡の意思表示をなすのみならず更に其手形金額の支拂あるべきことを擔保し且つ其支拂なきときは自ら支拂の責に任ずるの債務を負担する意思表示をなすものにしてこの債務は手形行爲獨立の原則に基き獨立の債務なりと雖も積極説の云ふが如く手形行爲は獨立なり而して裏書人は裏書なる手形行爲により獨立の債務を負担したるものなるが故に引受人又は振出人に對する免除にかかはらず獨立して責任を負はざるべからずとすは正當ならず。

蓋し手形行爲は獨立なりとは形式上に於いて完全なる手形に署名することによりて手形行爲をなしたるものなれば善意の所持人に對して獨立して手形上の債務を負ひ他の手形行爲の法律上無効なること取消し得べきものなることによりて影響せられざるの謂にして免除の如き手形行爲以外の行爲によりて影響せらるるや否やには關せざるなり故に手形行爲は獨立なるが故に免除は裏書人の責任には影響なしと論ずることを得ず第二の消極説は手形行爲者の責任を以て連帶責任なりとすし以て免除の効力を裏書人に及ぼせりと雖も手形行爲者の責任を以て連帶債務となすは當れりと云ふべからず。蓋し連帶債務は債務者間の對内關係に於いては常に所謂負擔部分なるものを存するものなるも手形行爲者間の對内關係に於いて斯の如き負擔部分の存せざることは勿論にして連帶債務に關する民法四百三十二條以下の規定にして手形上の債務に適用し得べきものあることなし。

手形行爲者間の責任を以て連帶債務となすは連帶債務の理論に反するものと云はざるべからず又この論者は商法二七三條を以て手形行爲者間の責任を連帶なりとなすも同條第一項は數人が同時に一行爲を以て債務を負担したる場合に關し又同條第二項は保證人の債務と主たる債務との關係を規定せるものにして手形債務に付き適用すべきものにあらず同條に依り手形行爲者の責任が連帶なりとなすは失當なり。

余の解する所に依れば裏書人は裏書なる手形行爲により獨立の債務を負担するものなりと雖も其獨立の債務たるや手形金額の支拂あるべきことを擔保し若し其支拂なき場合に於いては自ら其支拂の責に任ずるの債務償還義務即ち條件的獨立の債務にして保證債務に類するものなり

と云ふべし。其保證債務と異なる要點は保證債務は保證契約によりて發生するものなるも裏書人の責任は裏書なる手形行為によりて發生するものにしてこの點に於ける裏書が單獨行為なることに在り。右述ぶるが如く裏書人の負擔する債務は引受人又は振出人が手形債務の支拂ひをなさざる場合に於て自ら其償還をなすべき條件的獨立の債務なるを以て引受人又は振出人の債務にして消滅すれば裏書人の責任たる償還義務も亦當然消滅に歸するは固より其の所なり。蓋し手形所持人が自ら引受人又は振出人に對して其債務を免除しながら再び裏書人に對して其償還を求むるを許すが如きは償還義務の性質に反するのみならず自己自らの行為により債權を消滅せしめながら其償還を裏書人に求むるが如きは手形所持人一方の行為により裏書人の責任を左右するものにして總義上亦許すべきことにあらずこの理由によりて余は消極に解するものなり。

即ち引受人又は振出人に對して其債務を免除したるときは前述裏書人の性質上裏書人の債務も亦引受人又は振出人の債務消滅の結果として消滅し手形所持人は爾後裏書人に對しても該手形債權の請求をなすことを得ず若し所持人より訴求ありたるときは裏書人は所持人が既に引受人又は振出人に對して手形債務を免除したることを立證し勝訴の判決を得べきなり。然らば裏書人が引受人又は振出人に對する手形債務免除により自己の債務の消滅せることを主張する抗辯は如何なる抗辯なりや思ふに前述の如く裏書人の債務は元來條件的獨立の債務にして引受人又は振出人の債務にして消滅すれば同時に當然消滅すべき手形上の性質を有するものなるを以て引受人又は振出人の債務が消滅したるに依り裏書人の債務も亦消滅したるの事實は何人にも對抗し得べき所謂物的(絕對的)抗辯なりと云は

ざるべからず。

余の説は一言にして之れを覆へば裏書人の債務は條件的獨立の債務なるを以て引受人又は振出人の債務が免除により消滅したるときは當然消滅すべきものなり而して引受人又は振出人に對する免除行為は手形行為にあらざれば裏書人の責任が免除により影響を受けるや否やに關しては手形行為獨立の原則に従はず然れ共手形行為にあらざる免除により引受人又は振出人の債務消滅し従つて裏書人の責任も亦消滅せる事は手形法上の事實なるが故に何人にも對抗し得べきものにして従つて裏書人は何人にも對しても其責任を免るものなりと云ふに在り。

### 近代經濟學說の無産勞働階級觀

内藤 勉 夫

#### 第一 個人主義經濟學說

(a) スミスの無産勞働階級觀

(b) マルサス及リカアの無産勞働階級觀

#### 第二 團體主義經濟學說

(c) エス、ミルの無産勞働階級觀

(d) マルクスの無産勞働階級觀

#### 第三 結 語

アダム・スミスの無産勞働階級觀

滔滔たる自由主義の空氣を豊かに呼吸しつつ我經濟學祖アダム・スミスは生長した。極端なる保護干渉制度の餘弊を満喫した彼の時代は、産業革命の齎した大量生産を絶對的に助長促進する新しき經濟組織の展開を渴望して止まなかつた。大著「國富論」は實に經濟界の自由主義の結晶である。彼は社會の自然的發展を、個人の自利心の自由なる發動の中に見出した。人間は天性、利己的の也とする認識、之が彼の思想の根底を流るる中樞觀念

である。富の生産に於ても、分配に於ても、個人は自己の利益のみ逐ふの結果、知らず識らず「見ゆる手」に導かれて、正當にして、且つ自然的なる自由競争を生じ、常に人間至高の幸福を齎らす様に造られたる神の攝理に調和する。同情と自利とは二にして一、楯の両面である。故に各自、自己の利益の爲めにのみ専ら活動し得る現代個人主義經濟組織は、彼をして言はしむれば、誠に自然にして亦、最も巧妙なる社會組織と云ふべきである。吾人は更に進んで、勞働階級の所得、即勞賃は如何にして、又如何なる點に決定するか彼の學說を伺はんとする。彼は曰ふ、勞賃は各種の物價と等しく雇主と勞働者間の需給關係に依つて決定せらる。而して、一方最低勞賃率ありてこれ以下に下落せしむる事能はざると共に他方、勞賃支拂の資として定められたる一定の基金がある。勞賃の増加する割合は此基金の増加の割合以上に上昇する能はず、自然に平準點に歸着せんとする。疑ひも無く、勞賃乃至利潤の上に著るしい不平等があり得る。然しそれは、それ自身の特質、事業の難易、學習の困難、繼續性、信用の多少、成功の可能性)に基くものにして凡ての方面から比較斟酌して見れば、結局、最も公平なる點に分配せられるといふのである。

又假令、社會に如何に貧富の差を生ずるも富者が自分の生活の便宜を圖る結果として、自然に貧民階級に向つても生活必需品が分配せられる(河上肇氏著近世經濟思想史論四九頁参照)ものであつて富者は彼れ自身の奢侈を追求する結果、無意識に、貧民階級の中に其必需品を分配しつつあると、説いてゐるのである。

勿論、彼は「國富論」の中に勞賃の關係を論じて、兩階級は其利害に於て「絶對に調和せず」(Emerson: Analysis of A. Smith)と断定して、階級闘争説の先驅を爲してゐるのは興味深い事である。即ち勞賃互に團結して各自の利を争ふ時、資本家は

其少數なるを、富裕なるを、法律の保護を享くる(同上)の利便あるがために常に有利の地位に立つと結論する。如斯、彼は勞賃階級の不調和を認める、そのして勞働階級に温い同情を惜しまない。然し乍ら、一國の生産物の價格の總計が富なりと思惟する彼(河上氏、前掲書二八頁)にとつて、又資本額の増加が必然的に勞働階級の狀態を改善に導くものと思惟する彼(黒川芳藏氏、スミスの社會階級觀)にとつて、あらゆる人為的制度は生産を阻害するものとして絶對に排斥した。正義の範圍に於て、自由競争、放任の政策こそ最上のもの主張した。個人主義組織の缺陷を未だ見るに至らず、其極まれる弊害を知らざりし、彼の學說の勞働階級に對して、かく、樂觀的なりしは蓋し、當然の歸結である。

#### 無産勞働階級觀

マルサス及リカアの

スミスの創設した個人主義經濟學說は多幸にもマルサス、リカアの二大家を其承繼者に得て更に徹底、擴充殆んど完全の域に到達した。「英國は富に満ちたり。されど其英國は營養不良に死せんとす」(上田貞次郎氏、英國産業革命史論六一頁)と蘇の哲人をして絶叫せしめた様に産業革命は驚くべき富の生産を齎したけれど、他方には無数の無産階級を發生せしめ其慘憺たる狀態の解決は魚肩の急に迫つた。現實を凝視した二大家の學說は實に當時の經濟狀態の反映である。冷靜鐵の如き宣言は吾人をして其前に戰慄せしめる。マルサスは斷乎として結論する。「貧富は自然の產物である。決して或る特種階級或はある社會制度の結果として生じたものではない。貧窮は自然の產物なるが故に人類の進歩上、必要であり、少くとも之を除くべしと云ふ、あらゆる人為的企は凡て無用有害である」(河上氏、前掲書七三頁)。何が故に貧窮は自然の產物なるか、又何故社會改造は不可能なるか、彼れ之を彼れの名「人口の

原則」に於て答へんとする。マルクスは曾て歎じた「英國はそれ海嶼の如きか、渚に打寄する革命の一波萬波は此の海嶼に碎けては散る」(河上氏、前掲書一三頁)と。突兀と聳ゆる大海嶼、人口論は二つの前提の上に立つ。一は「食物は人の生存上必要也」。二は「兩性間の情慾は必要にして略現狀を維持すべし」(河上氏、前掲書九三九五頁)。而して情慾は快樂なるが故に(河上氏、前掲書九六頁)放任すれば人口は無制限に増加する傾向あるに反し、「苦痛の結果たる」食物の増加は更に收獲遞減の法則に支配せられて (Price: Econ. Hist. Part) — 明瞭に此法則を擧げてはゐないが — 前者に並行する事が出来ない。於茲、二個の「不同なる力」は如何にかして平均せしめなければならぬ。其結果人口増加の妨げが自然的に行はれる。「人類にありては貧窮及罪惡となり、前者即貧窮は絶對的に必要な結果であり、後者は最も可能的なる結果である」(河上氏、前掲書九七頁)。かかるが故に人間社會から罪惡及貧窮を根絶する事は絶對に不可能である。マルサスの人口論を信すれば人は社會の改造に絶望して拱手、前途を悲觀する外何物も無い。後に至つて彼が「道徳的抑制」なる一路を認めて其悲觀的色彩をやや稀薄にしたのは事實であるが貧窮を自然の發生と論斷したる事に於て、當面の論敵、ゴト井ン、コンドルセルの理想論を一蹴し去つたのは勿論、自由放任の個人主義組織に絶大の貢獻を爲したる事何人も看取し得るであらう。

貧窮は自然の發生なりとするも、何故に無産勞働階級のみ貧窮階級ならざるべからざるか、十九世紀の最大經濟學者、リカアドの勞賃論は之に對する答案である。勞賃論の基礎は、マルサスの人口原則と收獲遞減の法則である。勞力は一般の貨物と同じく自然價格、市場價格の二種を有する。而して市場價格は絶えず自然價格に接近せんとする傾向を有つ。勞力の自然價格(勞働者再生産に必

要なる食物並に必需品の價格)は社會の進歩に伴つて上騰する。一方、食物の價格は收獲遞減の法則に従つて次第に騰貴する。ところが市場價格と云ふのは勞力に對して事實上支拂はるる價格であつて、之は需給の關係に依つて決定せらる。而して需給を決定するものは資本の數量と勞働者の人口數である。然るに人口原則あるが故に市場價格は事實上、自然價格以下に、即貧窮線以下に、下落する傾向を有する。勞働階級にして自ら人口制限を行はざる限り、貧窮に沈淪するは天の定むる所である。自由放任は自然の大則である。資本家が懐手して利潤を得るを諱る勿れ。そは天に投げたる石の地上に落つるを尤むるものである。

ゼー・エス・ミルの無産勞働階級觀

個人主義經濟學説は、マルサス、リカアドを以て其最高峰を極め、これより各方面に擡頭し來つた團體主義の學説の包圍の中に陥つて仕舞つた。ミルは、此過度期を代表する絶好の經濟學者である。彼は個人主義經濟學を繼承して勞賃基金論の信奉者であつた。即ちある一定の場所及時期に於て、勞働者に支拂はるべき一定の勞賃がある。勞賃は此基金を勞働者の數を以て除したるものである。勞働者の數、増加せば勞賃減少し、一部の者の勞賃増加せば他の者の額は減少するか、失業の危に會ふ外は無い。若し國家が資本家に課税して之を救済せんとすれば、資本増加に打撃を與へる。之が解決策は個人の自覺に俟つ外は無い。「惟へらく、勞働者に自製の念之きは事實であるが、其教育の如何に依つては、之を開發する事が出来る。即ち人口と資本の關係を明かにし、勞働者にして人口を制限するに非ざれば、其地位の上進は、遂に期すべからざる事を自覺せしむるにある」(備田民藏氏、ミルの社會思想)。

濟學者として、彼は、飽くまで自由競争、資本の利用、利潤の取得を是認しつづ (The Race: Hig. of Econ. Doctrines) 繰出し來る勞働問題を、到底此學説を以つて解決する能はずと煩悶を重ねた。終に分配論に於て、自然法を拒絶するに至り、基金説を放棄し、徐徐に國家の干渉を認容し、團體主義に掉すに至つた。彼の學説は個人、團體、兩主義の上に立つ分水嶺である。

カール・マルクスの無産勞働階級觀

絶壁を落下した、團體主義の諸溪流は、茲に合して長江大海に注ぐ。マルクスの「資本論」は論理透徹、義理明晰、眞に社會主義經濟學の聖典の名に背かない。就中、剩餘價值説は嚴正なる科學の立場に於て、資本階級の勞働階級搾取の理論を證明し、人による人の搾取を禁絶し、人間の平等を高潮する。剩餘價值説は、勞働價值説に出發する。勞働は單に經濟價値の尺度、原因たるのみならず又其實體である (Gide, Hist. of Econ. Doctrines) この學説は其源を個人主義經濟學説に遡り、ベチー、スミス、特にリカアドを其信奉者に數へ得る。マルクスが此學説の上に彼の學説の基礎を置き、社會主義學説を打ち立てたのは誠に興味深い事である。資本的生産方法の行はるる社會の富は無数の商品よりなる。商品とは市場に賣る事を目的として造られたる勞働生産物を云ふ。而して、商品が相互間の一定比率に於て交換せらるる理由如何。曰く、此二つの商品には同一量の勞働が投入せられたるに由る。故に商品の價値は之に投せられたる勞働の分量に依つて定まる。其勞働量は「社會的に必要な」勞働時間に依つて測定せらる。「社會的に必要な」勞働時間とは、一定の社會に於て普通の條件の下に、普通の熟練及び勞働強度を以つてして一物を生産するに要する勞働時間と云ふ意味(小泉信三氏、科學的社會主義)である。以上の價値論を基礎として、剩餘價值説

は生れる。今日の社會に於ては、勞働力は一の商品として賣買される。勞働力の價値は他の商品と同じく、勞働力を生産する生活資料に依り定まる、即勞働者の一家が一日に消費する生活資料の總量は勞働力、一日の價値に等しい。そこで假に資本家が一日分の勞働力を買ふとする、而して、この勞働力を生産するに必要な時間を六時間として、之を貨幣價値で表せば三マルクに相當するを假定する。然し乍ら、資本家は營利を目的とするが故に、勞働力一日分を三マルクにて買ひ十二時間働かせたとする、後の六時間で生産せられた分は剩餘となる。資本家は勞働者に三マルクを支拂ひ自分は後の三マルクを對價を支拂ふ事なく懐中する。故に曰ふ、資本家の取得する利潤は勞働生産物の一部を搾取したものに外ならぬ。如斯して資本の集中行はれ、それは必然的に多數の無産勞働階級を現出せしめる。而して、この階級をして貧窮線屬の鐵鎖に縛る原因をマルクスはマルサスと異り「産業豫備軍」の中に見出さんとする。前述の如く剩餘を生ぜしめて産出したる生産物を、優勝劣敗の競争激甚なる即生産の無政府状態なる市場に送り出す、苟くも劣敗者たるを欲せざる限り、生産品を低廉にしなければならぬ。これには三種の方法がある。(一)賃金の引下。(二)勞働時間の延長。(三)勞働生産能率の増進、新に機械即不可變資本の改善である。然るに(一)と(二)とは自ら限度がある。そこで勢(三)に全力を注ぐ事となる。而して機械の完全と比例して、勞働者の手が益害けて來る。茲に勞働力を有し乍ら雇傭を得ざる群團が存する。彼は之を「産業豫備軍」と名づける。是があるがために、現役軍の賃金は始終、壓迫せられ上騰する事が不可能である。「誠に此法則は、資本蓄積に相應する貧困の蓄積を生ぜしめる。一方極に於ける富の蓄積は、同時に他方極、即自己の生産物を資本として送り出す側

雜 錄

ガウエン博士の文樂座印象記

昨年二月本學を訪れ宮島、岩崎、服部各教授の案内で文樂座を見物して歸米したワシントン大學教授ハーバート・エッチ・ガウエン博士は最近ニューヨークの演劇雜誌『ザ・ドラマ』に日本演劇の印象記を寄せ、その中文樂座の淨瑠璃芝居について宮島教授の言葉を引いて大阪三淨瑠璃の關係を説明したり、人形遣ひやその助手が舞臺にあらはれてゐるにも拘らず、それが少しも人形に對する注意を亂さぬことや、人形の目・口・指まで巧妙に動くことやを感歎して書いてゐる。因に右雜誌は博士から宮島教授まで送つて來たもので、人形芝居の寫眞數葉をも載せてゐる。

西村校友の第一信

既報會計學研究の目的で渡米した校友西村勝太郎氏は、この程宮島教授に第一信を寄せて無事到着、目下ワシントン大學に入學の準備中であるこゝを報じて來た。

服部教授のショー・ウィンドー

ドー競技會審査委員受託

去る五月十五日から二十四日まで大阪白木屋呉服店樓上で、大阪問屋案内社主催のショー・ウィンドー競技會があつたが、本學服部教授はその審査委員を委嘱せられ、二十三日審査終了後晚餐會席上で審査概評をして一場の講演を試みた。

服部教授と人柱映畫劇

本年一月皇太子殿下御成婚記念エヂュケーション・ウィークの第三日として本學近郊史蹟探査會を行つた時訪問した大願寺に、蘇我岩氏の長柄江の人住の事蹟に關する推古朝時代の記録、歌文が残つてゐるこゝは當時所報の



廣瀬徳藏氏(上)  
小郷太郎氏(下)



通りであるが、今回同寺住職が廣く岩氏の徳を頌する意味で右事蹟を戯曲化した『長柄江の人柱』を更に服部教授が脚色し、濱田映畫研究所に撮影せしめたものを、五月三十一日中央公會堂に於いて晝夜二回公開した。席上服部教授は岩氏の事蹟につき一場の講演を試みたが來會者多數で頗る盛會であつた。

カ大學の學生氣質

カリフォルニア大學學生の用ふる試験用紙に次のやうな文句が書いてある。日本では俗にカンニング(眞の英語は cheating)スラングでは to use a pony (ニ云ふ)云ふこゝろが、大抵の學校で、試験の度毎に問題になるが、誠大風一過、激しかった政戦の後には、當選の榮光と落選の悲運とが、ミリミリに各戰士の頭上に見舞つた。この二つの異つた運命に、或は喜び或は失望してゐる人々の中に、直接間接本學に關係ある人も少くない。全國隨一の激戦地であつた大阪市北區から、堂堂當選した校友廣瀬徳藏氏、岡山縣から悠悠として再選した講師小郷太郎博士の雄姿をここに紹介する。

に思はしいこゝである。我國でも總ての學生が、ここに書いてあるやうな立派な心懸になつて欲しいと思ふ。

BLUE BOOK

We, the students of the University of California, do not tolerate the giving or receiving of assistance in examination.

受贈書籍

- |   |         |
|---|---------|
| 書名  | 寄贈者芳名   |
| 米田實著 最近世界の外交  | 著者 書    |
| 烏賀陽燃良著 商法要論(上)  | 著者 書    |
| 若米地英俊著 商業英語通信軌範 二册  | 鈴木徳三郎氏  |
| 能澤一衛著 青山餘影  | 著者 者    |
| 竹野竹三郎著 破産法原論  | 著者 者    |
| 池田碧丁著 雪を凌ぎて   | 著者 者    |
| 高橋正彦譯 カント永久平和論  | 著者 者    |
| Manchester Institute of Insurance Journal of Manchester Institute No. 1, 1923, No. 2, 1924. | 宮島綱男氏   |
| シード原著 飯島幡司氏譯 經濟學  | 著者 者    |
| 關西藝術新聞 第四十五一六號  | 關西藝術新聞社 |

山岡總理事の藏書寄贈

今回本學總理事山岡順太郎氏は、左記藏書(全六冊)を本學圖書館に寄贈せられたが、該書は同氏の知友犀東國府種徳氏から外遊土産として贈られたものであつて、更にこれを本學に寄贈し、學生諸君の參考に資するものである。

Arthur Conan Doyle,  
The British Campaign in  
France and Flanders (1914—1918)

皇太子殿下御成婚  
記念文庫資金 寄附申込者芳名

皇太子殿下御成婚 記念文庫資金 寄附申込者芳名	一口金五圓 (申込順)	四	口	多羅尾源三郎氏
	深草六治郎氏	一	口	鈴木徳三郎氏
	今村勇之助氏	一	口	中村虎次郎氏
	手塚太郎氏	一〇	口	中山寅吉氏
	山岡順太郎氏	二〇	口	門前元吉郎氏
	清水伴造氏	一	口	岡田市松氏
	深野憲一氏	一	口	橋本政吉氏
	平野官太郎氏	四	口	田所美治氏
	渡邊五郎氏	一	口	前田卯吉氏
				飯田彌之助氏
				堤駒七郎氏
				田川七郎氏

皇太子殿下御成婚記念文庫に就て

從來弊學のため一方ならぬ御援助を忝うし誠に感謝に堪へません近來遲遅ながらも極めて堅實なる發展を遂げつつあるのは偏に御厚情の賜であるは勿論同時にその萬一に酬ゆる所以でもある密かに喜ばしく存じてをります斯くの如く日頃御迷惑をおかけしてをります上に又重ねて御尊慮を煩はしますのは誠に恐縮でございますが過般行はせられた皇太子殿下御成婚を記念する事業の一として皆様の御同情の下に左記の事項を實現いたしたいと存じます幸ひ御賛同下さいましてこの際特に御芳配且つ御援助願はれますれば欣喜の至に存じます 今次の御慶宴を機とし重ねて御願ひ申上げます

記

皇太子殿下  
御成婚 記念文庫の新設

【内容】 主として憲法、國家學等に關する内外の圖書を蒐集いたします

【資金】 江湖の御喜捨に仰ぎたいと存じます尚ほ便宜上一口を金五圓としその口數は

御芳志に依り然るべく御願ひいたします

大正十三年六月

關西大學

關西大學校友  
其他關係者 各位

新啓氏	一	口	
藤井鼎石氏	一	口	
藤田玉司氏	一	口	
川西菊藏氏	一	口	
田邊信太郎氏	一〇	口	
眞野恒太郎氏	二	口	
田中喜三治氏	一〇	口	
武田藏之助氏	二	口	
石田實氏	一	口	
高橋松一郎氏	二	口	
豊田卯右衛門氏	四	口	
上妻博氏	四	口	
武藤山治氏	五〇	口	
伊藤秀雄氏	二	口	

正誤——第十七號本報道中倉永達氏とあるのは金永達氏の誤につき訂正する。

(以下後報)

(學内報追加)

本學文科新設に對するフラ  
ンクフルト大學よりの祝文

本誌學内報記事締切後、更にドイツのフランクフルト大學から左の如き、本學文學科新設に對する祝文が寄せられたので、ここに追加掲載するところとする。

フランクフルト大學祝文

Hochverehrte Herrn Kollegen!

Zur Eröffnung der Philosophischen Fakultät Ihrer Universität bringt die Universität Frankfurt am Main ihre herzlichsten Glückwünsche dar. Möge die neue Pflanzstätte der Geisteswissenschaften dazu beitragen, das hohe Ansehen der japanischen Wissenschaft weiter zu ver-

mehren und die freundschaftlichen Beziehungen zwischen den Völkern zum Wohle der gesamten Menschheit zu fördern.  
Für Ihre freundlichen Glückwünsche für unsere ebenfalls noch junge Hochschule danken wir herzlichst.  
In ausgedehnter Hochschätzung  
Ihr ergebener

右抄譯

貴學に文學科の創設せられたことに對し、フランクフルト大學は衷心よりの祝意を表します。この精神學科の教養所たる文學科が、日本の科學の發達向上に貢獻し、併せて我ドイツの間の親善を進め、更に延いて世界全人類の幸福を増進せんことを切望して已みません。  
終りに創立後日尚ほ淺き我大學に對する貴學の御厚意を感謝致します。

フランクフルト大學總長 プルヒャルド

本學學位規程に對する授會規程認可せらる

かねて申請中であつた本學學位規程に對する會規定は、愈本月五日附を以て文部大臣から認可せられた。因に右兩規程の全文は左の通りである。

關西大學學位規程

第一條 本學に於て授與スル學位ハ左ノ二種トス

法學博士  
商學博士

第二條 本學大學院ニ於テ二年以上研究ニ從事シタル者ハ論文ヲ本學學長ニ提出シテ學位ヲ請求スルコトヲ得



關西大學校友ソノ他關係者各位へ

●千里山學報維持費トシテ、校友ソノ他關係者各位カラ續續多額ノ御出捐ニ預リ有難ク幾重ニモ御禮申上ゲマス。  
 何時モ申上ゲテキマス通り、出來ルナラハ每號無料デ御配付申上ゲルノガ本意デアリマスガ、今ノトコロドウシテモ各位ノ御援助ニ俟タナケレバ、到底發行ヲ續ケテ行クコトノ出來ヌ狀態ニアリマスノデ、遺憾ナガラ不遠慮ニト言フヨリモ寧ロ進ンデ御寄捐ヲ仰イデキル次第、何卒惡シカラズ御諒恕ヲ願ヒマス。  
 ●金額ハ各位ノ御志ニ委セル外ゴザイマセンガ、大體年額貳圓位御寄捐願ヘマスレバ收支相償フ旨申添ヘテ置キマス。  
 ●從來御出捐願ヘナカツタ方ニ、コノ際何分ノ御援助ヲ御願ヒ申シ上ゲマス。ソシテ新タニ御出捐下サル方ハ、御手數デスガ左ノ申込書ヲ御切り取り下サツテ、金額ナリ拂込方法ナリ適宜御書入ノ上御送付願ヒマス。  
 ●尚ホ、一年以上繼續御送申上ゲテ井ル方デ、今尚ホ御出捐ガナク、且ツ維持費ニ付テ何等ノ御通報ニモ接シナイ方ハ、或ハ送付先ニ現住サレナイノデハナイカト存ジマスカラ、今後發送ヲ見合セルコトニ致シマス。  
 大正十三年六月 關西大學學報局

千里山學報維持費拂込申込書

住所 年度 科 名 貴

金額

一金

拂込方法

振替貯金又ハ郵便爲替

集 金 郵 便

(何れか一方を抹消して下さい)

千里山學報 第二十一號

前項ニ該當スル者ノ外學位ヲ請求スル者ハ自著ノ論文ニ履歷書ヲ添ヘ請求スル學位ノ種類ヲ指定シテ之ヲ本學學長ニ提出スヘシ學長ハ受理シタル論文ヲ當該學部教授會ノ審査ニ付ス

第三條 學位論文ハ一篇トシ同文ニ通テ提出スヘシ、但參考論文ヲ添附スルコトヲ得

第四條 學位ヲ請求スル者ハ論文ノ提出ト共ニ審査手数料金壹百圓ヲ納付スヘシ

第五條 學部教授會ハ審査ニ付セラレタル論文ニ付二名以上ノ主査委員ヲ其學部教授會ヨリ選定シ之ヲ審査セシム、但學部教授會ニ於テ必要アリト認ムルトキハ當該學部教授以外ノ者ニ審査ノ一部ヲ委嘱スルコトヲ得

第六條 主査委員論文ノ審査ヲ了リタルトキハ其要旨ニ意見ヲ附シ之ヲ教授會ニ報告スヘシ

第七條 學部教授會ニ於テ學位ヲ授與スヘキモノト議決シタルトキハ學長ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ學位ヲ授與シ學位記ヲ交付ス

第八條 本學ニ於テ學位ヲ受領シタル者其榮譽ヲ汚辱スル行爲アルトキハ學長ハ當該學部教授會ノ決議及文部大臣ノ認可ヲ經テ學位ノ授與ヲ取消シ學位記ヲ返付セシム

第九條 學位記ノ様式左ノ如シ

學位記

氏 名

右者論文( )ヲ提出シテ學位ヲ請求シ本學( )學部教授會ハ之ヲ授與スヘキモノト認メタリ、仍テ學位令ニ依リ茲ニ( )學博士ノ學位ヲ授ク

年月日 關西大學

關西大學教授會規程

第一條 本大學各學部ニ教授會ヲ置ク

第二條 教授會ハ當該學部教授又ハ學長ノ委囑シタル教員ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條 教授會ハ學長又ハ學部部長之ヲ召集ス

第四條 教授會ハ左ノ事項ヲ審議ス

一、學科課程其他授業ニ關スル件

二、試驗ニ關スル件

三、學生ノ管理及處罰ニ關スル件

四、海外留學生ニ關スル件

五、學位ニ關スル件

六、學則其他ノ規程ニ於テ教授會ニ附議スヘキ事項並教授會上重要ノ件

七、其他學長又ハ學部部長ヨリ諮詢ノ件

第五條 教授會ノ議事ハ出席者ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス、但前條第五號ノ場合ハ全員ノ三分ノ二以上出席シ其三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要シ學位授與取消ノ場合ハ全員ノ三分ノ二以上出席シ其四分ノ三以上ノ同意アルコトヲ要ス

第六條 前條但書ニ依ル決議ヲ爲スニハ無記名投票ニ依ル

佐竹理事勅選議員被仰付

本學理事、法學博士佐竹三吾氏は、今回勅選議員を仰せ付けられた。

佐竹理事法制局長官辭任

本學理事、法學博士佐竹三吾氏は、今回の内閣更迭に依り法制局長官を辭任した。

本誌維持費受領報告

(受領順)

金貳圓也	關甲卒	正田伊三郎氏
金貳圓也	同	小田達夫氏
金貳圓也	大三角	神田明治氏
金貳圓也	講師	田邊信太郎氏
金五圓也	明三九法	小森廣氏
金貳圓也	大八角	澁谷敬治氏
金五圓也	大九經	澁川忠次郎氏
金貳圓也	大九經	西村勝太郎氏
金貳圓也	大九經	上妻博氏
金貳圓也	大九經	秦良三氏
金貳圓也	大九經	西原紋一氏
金貳圓也	明三九法	池下米吉氏
金貳圓也	大九經	氏家厚太郎氏
金貳圓也	明三九法	福富恭禮氏
金貳圓也	明三九法	門前元吉郎氏
金貳圓也	大九經	松下政一氏
金貳圓也	大九經	三瀬光義氏
金貳圓也	明三九法	北本常三郎氏
金貳圓也	大九經	奥田發三郎氏
金貳圓也	大九經	梶川仙太郎氏
金貳圓也	大九經	滿田清四郎氏
金貳圓也	明三九法	佐藤義道氏
金貳圓也	同四四商	野野村弘氏
金貳圓也	大九經	鈴木愛憲氏
金貳圓也	明三九法	平田金次氏
金貳圓也	大九經	藤本保一氏
金貳圓也	推	安井鹿士氏
金貳圓也	大九經	中井吉輝氏
金五圓也	大三角	加來定義氏

金貳圓也	大三角	佐藤芳太郎氏
金貳圓也	大九經	禰隆一氏
金貳圓也	大九經	小林一二氏
金貳圓也	大九經	河合治氏
金貳圓也	大九經	中村岩見氏
金貳圓也	大九經	河面三一氏
金貳圓也	大九經	島昌三氏
金貳圓也	推	藤井清秀氏
金貳圓也	大九經	村上隆彦氏
金貳圓也	大九經	近藤淳一郎氏
金貳圓也	大九經	石川良助氏
金貳圓也	大九經	頓戸勇氏
金貳圓也	大九經	臼井祐治氏
金貳圓也	大九經	別木靜哉氏
金貳圓也	大九經	兒玉芳太郎氏
金貳圓也	明四五經	北川昇氏
金貳圓也	講	新町徳之氏
金貳圓也	大九經	上野權七氏
金貳圓也	大九經	中村敬直氏
金貳圓也	講	武田藏之助氏

(以下後報)

親交俱樂部春季總會

(校友彙報追加)

大正十年度本學法律學科卒業生を以て組織する親交俱樂部春季總會は、衆議院議員總選舉のため延期されてゐたが、去る五月三十日午後五時半から、市内南區茶臼山榎佐に於て開催せられた。先づ幹事の會務報告に次で、

- 一、會費を一ヶ月參拾錢に改むること
- 二、會員中に慶吊ありたるときは會費中より金貳圓を贈呈すること

等を決議したる後、次回幹事改選の結果、竹内勇、田中英一、池島源之丞の三氏再選重任

に決し、直に宴に移つたが、會場は幹事苦心の結果選定せられた風光明媚を誇る場所である上に、酒間を斡旋する妓も亦美しく、共に大いに會員を満足せしめ、十二分の歡を盡して、午後十一時和氣霽靄裡に散會した。因に當日の出席會員は左の通りである。

尾川隆二氏、陰山常一氏、田中藤作氏、丹二良氏、宮本政藏氏、新貝康男氏、竹内勇氏、田中英一氏、池島源之丞氏。

尙ほ前記會員の外に、當會出席のため、わざわざ高知市から上阪せられた辯護士岡本海一氏及び在阪辯護士阪中繁市氏も出席せられた。

(源島同會幹事報)

(第二十二頁より續く)

に於ける貧窮、勞働苦、隸屬、無智、動物化、墮落なる「小泉氏、前掲書」。かくして階級意識は益鮮明となり、訓練せられ、結合せられ、且つ組織せられて壓迫階級に對抗する。反之、資本獨占の課程に於ける、それ自身の矛盾は、最早、生産力を助長せず、反つて之を阻害する。資本主義の外皮は自然に破裂する。資本主義即個人主義の吊鐘が鳴る。

結語

現代最難關の社會問題は、無産階級を中心として旋轉する。産業革命の惨ましき結果たる近代無産階級問題の根本的解決は、最も之を經濟學說に俟つ。惟ふに社會は、建設、分解の兩作用不斷に行はれて、絶へざる進化的道程にある。無産階級の生存権の否認より其肯定へ、潮流は何物の力をも粉碎して蕩に進み來つた。然るに茲に保守思想と呼ばれるものがある。一の時代の學說、一の時代の主義を永久に完全無缺なりと思惟し、凡ゆる至難の問題を、強て、自己の狹隘なる眼界裡に解釋せんと欲する。かくして經濟學は囚はれる。一學說がそれ自身、完全なりと標榜するの時

既に崩壞の萌芽を胚胎する。吾人は茲に既往の學說を辿つて、それが個人主義、團體主義といふも超越の突發的に對立するものに非ざる事を知つた。凡ての人類が「文化の建設に參與する尊き人格たるべき解放運動」の指針として、應化、流動しつつある經濟學說の片鱗だもと冀て此小篇を草するものである。(完)

學生諸君に告ぐ

▲今回千里山(圖書閱覽室)、福島(學生入口)兩學舎に、千里山學報投稿函を備付けましたから、各部各會の模様、事業その他學報に掲載希望の原稿を投入して下さい。

▲但し寫眞その他投入不能の材料は事務所又は學報局へ直接提出して下さい。

▲每號締切は前月二十五日とし、その以後の分は次號に廻します。

大正十三年六月 關西大學學報局

不許複製

編輯兼發行人 辰巳經世

印刷者 飯田彌之助

印刷所 鐵三有社

發行所 關西大學學報局

舊學舎 關西大學

電話土佐堀(一〇四九) 電話土佐堀(五五七〇)

新學舎 關西大學

大阪市外千里山 電話吹田一二三

關西大學 指定洋服商  
關西甲種商業

大阪市上本町六丁目

# 長谷屋號

電話 南四五二番  
振替 大阪五五三八番

●今宮支店 ●釣鐘町支店

關西大學 指定  
關西甲種商業

西區京町堀上

# 難波洋服店

電話 土佐堀二六三五番

關西大學 御用達  
關西甲種商業

洋簿帳記  
大學ノ帳類  
雜記帳類

# 卸商 大島亥商店

大阪市東區南久寶寺町一丁目一九

電話 船場 (二四六九番  
三九二一番)  
振替 大阪三七〇一番

關西大學 指定  
關西甲種商業

# 明文堂野島書店

大阪市北區上福島北三丁目  
電話 土佐堀 一二八六番  
振替 大阪 三九九九一番

本學校友 野島藤次郎

モーニングその他式服禮服  
等の技術は店主の最も得意  
とするところ、御調製の節は  
宜しく御引立願上げ候

大阪市東區上本町九丁目  
前所留停

# 樺山洋服店

電話 南六六九番

樺山誠一 主店

外交員を省き店主直接御相  
談申上ぐべく候



# 清々しき装ひ

あらゆる眞夏の御用意は

七月の三越へー

梅雨霽れの空、赫灼と輝く陽の光に夏の  
 威力が加つて参ります。七月の當店は、  
 汗ばむ肌の御下着に、袂も軽ろやかなう  
 すものに、爽やかなお化粧料  
 など、あらゆる清々しい御用  
 意を初め、避暑用品に、さて

は中元御贈答品御選定の御  
 便宜等只管夏を背景として  
 装ひを新たにし、内容を充  
 實せしめました。何卒一層  
 の御引立を希ひ上げます



## 三越呉服店

大阪

